

## Ⅱ 設問と回答分布

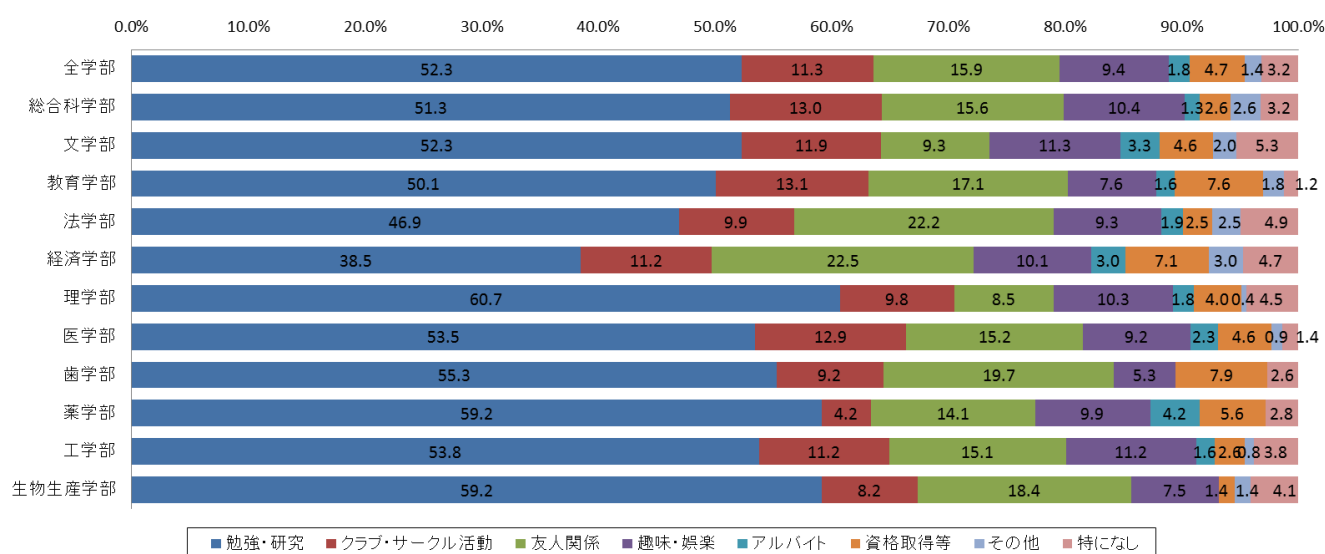
(※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合があります)

### 学部

#### 1 大学生活において大切にしているもの

##### 設問1 大学生活において何を大切にしていますか。

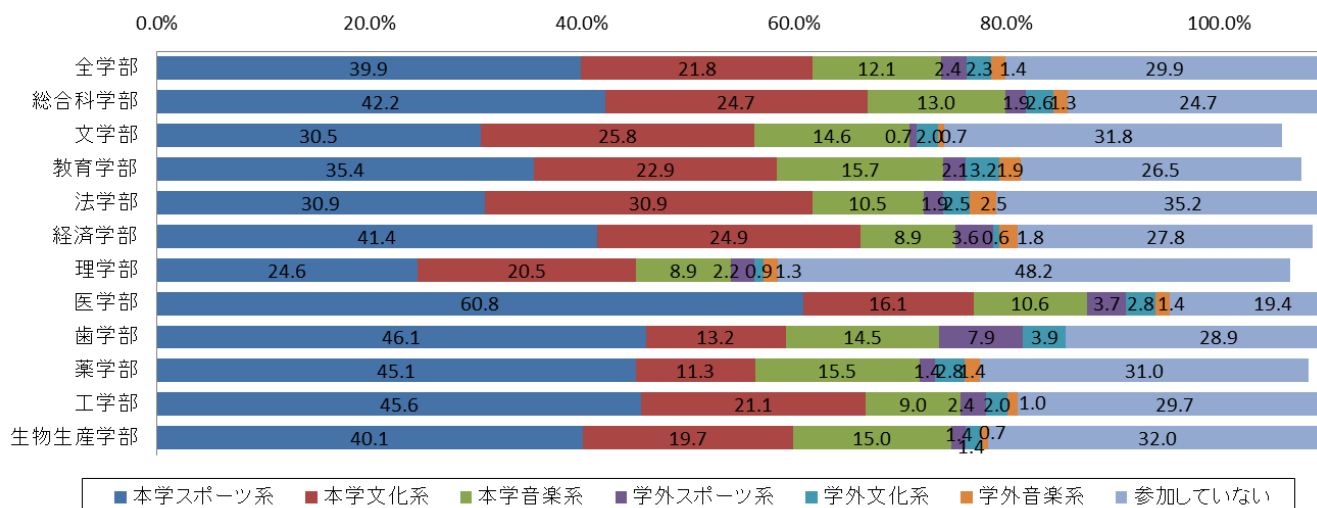
全体として、「勉強・研究」(52.3%)を大切にすると答えた学生が最も多いが、「友人関係」(15.9%)や「クラブ・サークル活動」(11.3%)を大切にすると答えた学生も少なくない。これらの傾向は、前回(平成26年)とほぼ同様である。ただし、学部によって、傾向は多少異なり、「勉強・研究」の割合は経済学部・法学部では比較的低く、理学部・薬学部・生物生産学部では比較的高い。



#### 2 学内外のクラブ・サークル活動への参加

##### 設問2 学内外のクラブやサークル活動に参加していますか。(複数回答可)

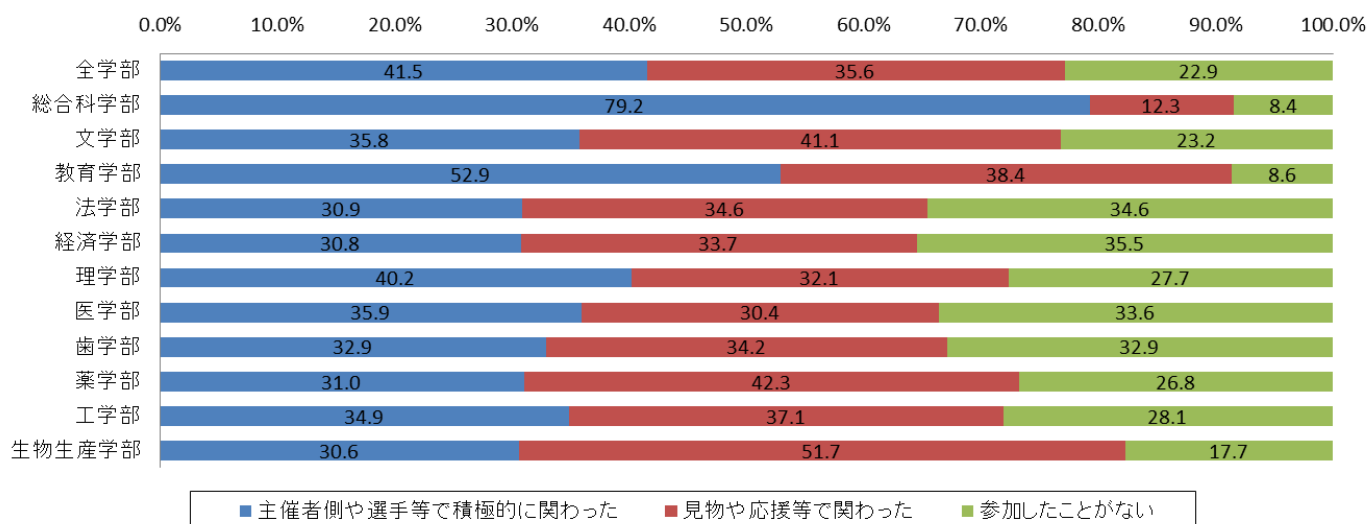
前回(平成26年)と同様、全体として、7割を超える学生が何らかのクラブ・サークル活動に参加しており、その大部分が学内のクラブ・サークルでの活動である。全体として、「本学スポーツ系」(39.9%)が最も多いが、その傾向は学部によって多少異なる。「本学スポーツ系」の参加者の割合は、理学部が最も低く、医学部が最も高い。一方、クラブ・サークル活動に参加していない学生の割合は、全体としては、3割程度であるが、理学部ではその割合が5割近くもあり、医学部では2割弱である。



### 3 大学の行事への参加

#### 設問3 大学祭、ゆかたまつり、フェニックスリレーマラソン等の大学の行事に参加したことがありますか。

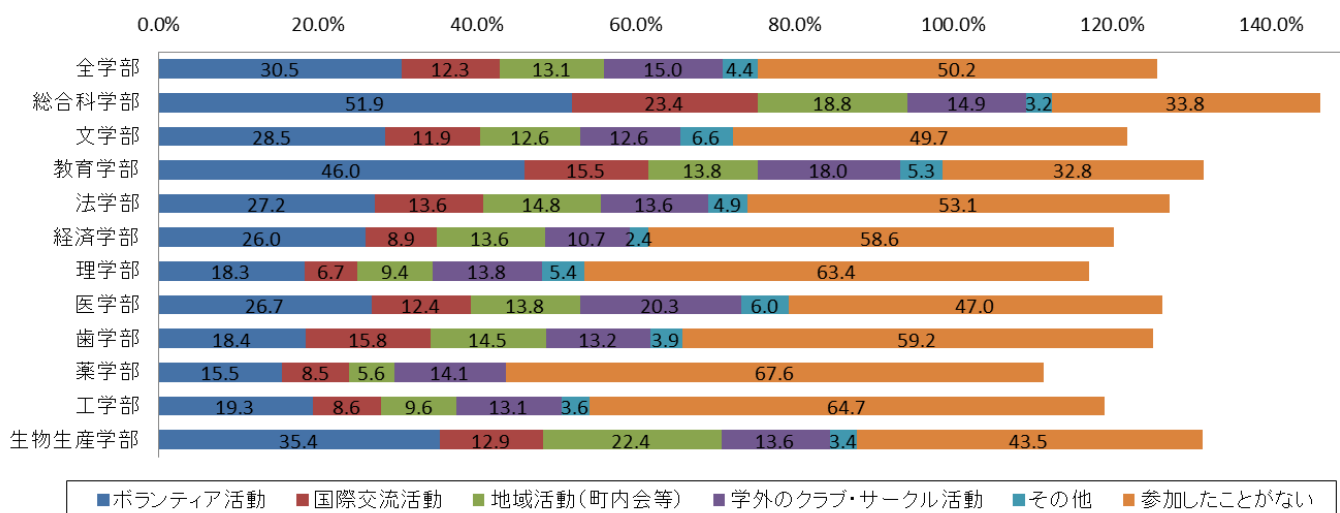
全体として、主催者や選手等としてイベントに積極的に関わった学生は41.5%、見物や応援等でイベントに参加した学生は35.6%であり、8割近くの学生がこれらの大学行事に関わっており、学生の関心は比較的高いといえる。特に、総合科学部・教育学部では、9割以上の学生が大学行事に関わっている。総合科学部では、79.2%の学生が、主催者や選手等として関わっており、その割合は非常に高い。



### 4 ボランティアや地域活動への参加

#### 設問4 ボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか。(複数回答可)

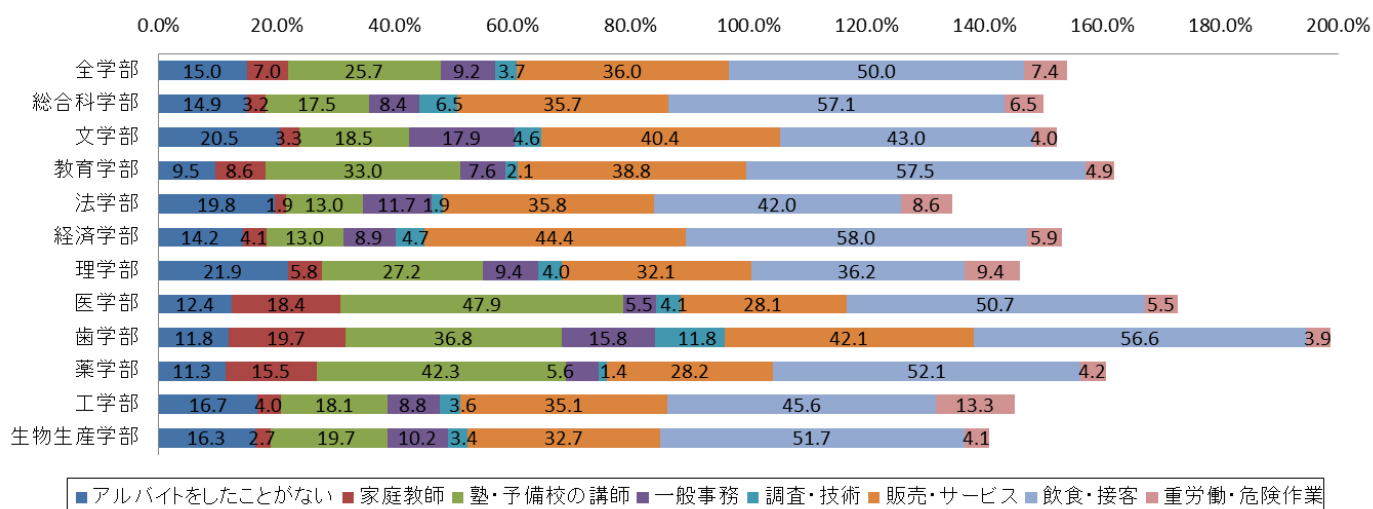
前回(平成26年)と同様、全体として、ほぼ半数が何らかの活動に参加した経験を持つ。そのうち、ボランティア活動(30.5%)が最も多い。ボランティア活動への参加者の割合は、総合科学部・教育学部では、特に高い。



## 5 アルバイト

### 設問5 入学後何らかのアルバイトに就業したことがありますか。(複数回答可)

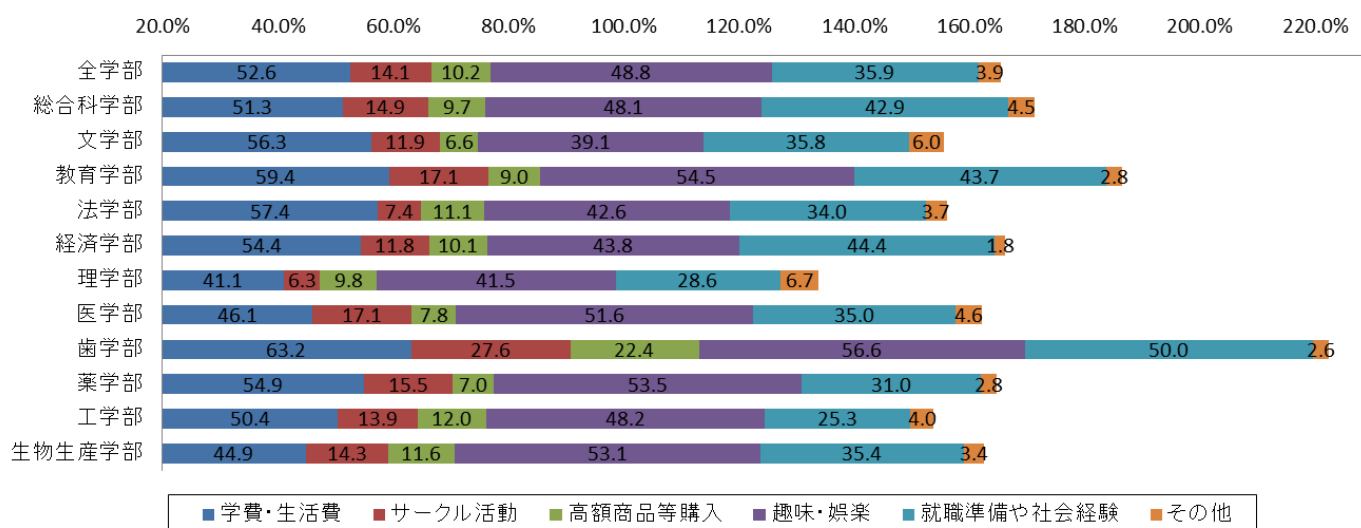
全体として、ほぼ8割を超える学生がアルバイトを経験しており、職種は、「飲食・接客」(50.0%)、「販売・サービス業」(36.0%)、「塾・予備校の講師」(25.7%)の順である。歯学部・医学部・薬学部では、「家庭教師」の割合が他の学部よりも高い。



### 設問6 アルバイトの主な目的は何ですか。(複数回答可)

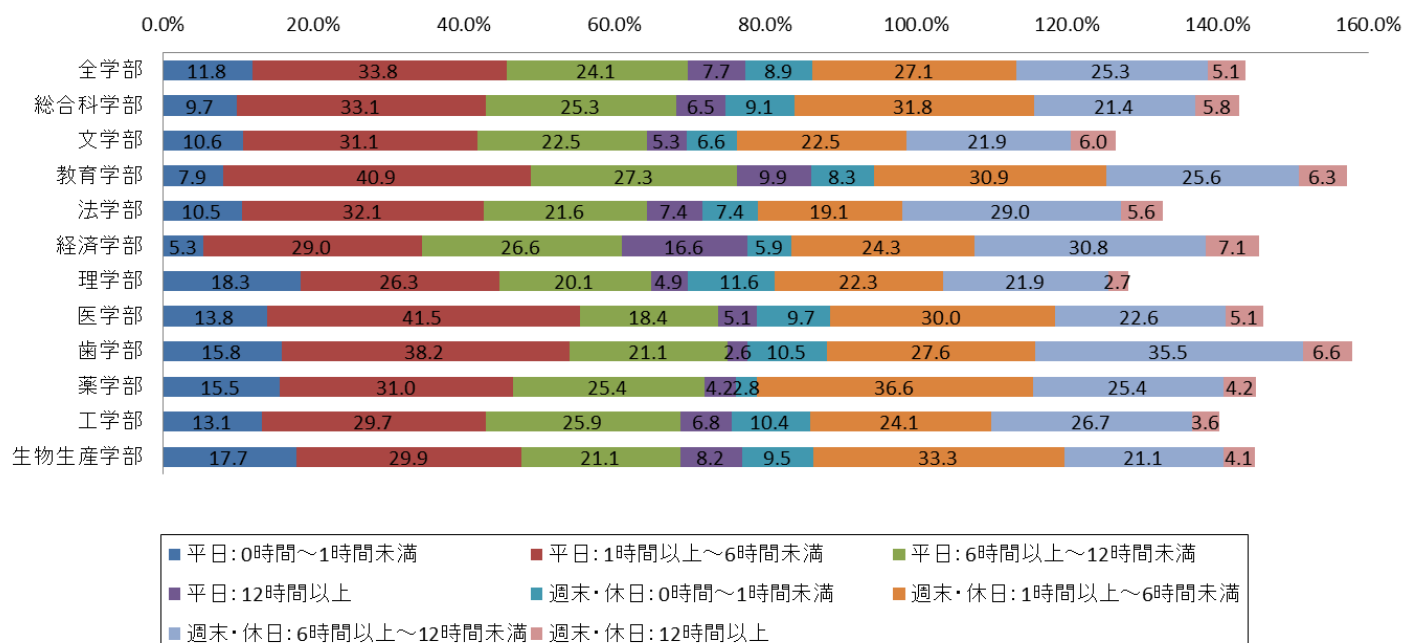
アルバイトの目的は、「学費・生活費」(52.6%)、「趣味・娯楽」(48.8%)、「就職準備や社会経験」(35.9%)が上位3つの理由である。「学費・生活費」のためとする理由は、前回調査より若干増加している。

※ グラフの目盛りの最小値は20%



**設問7 一週間あたりアルバイトを何時間していますか。「平日」及び「週末・休日」それぞれの中から一つずつ選択してください。**

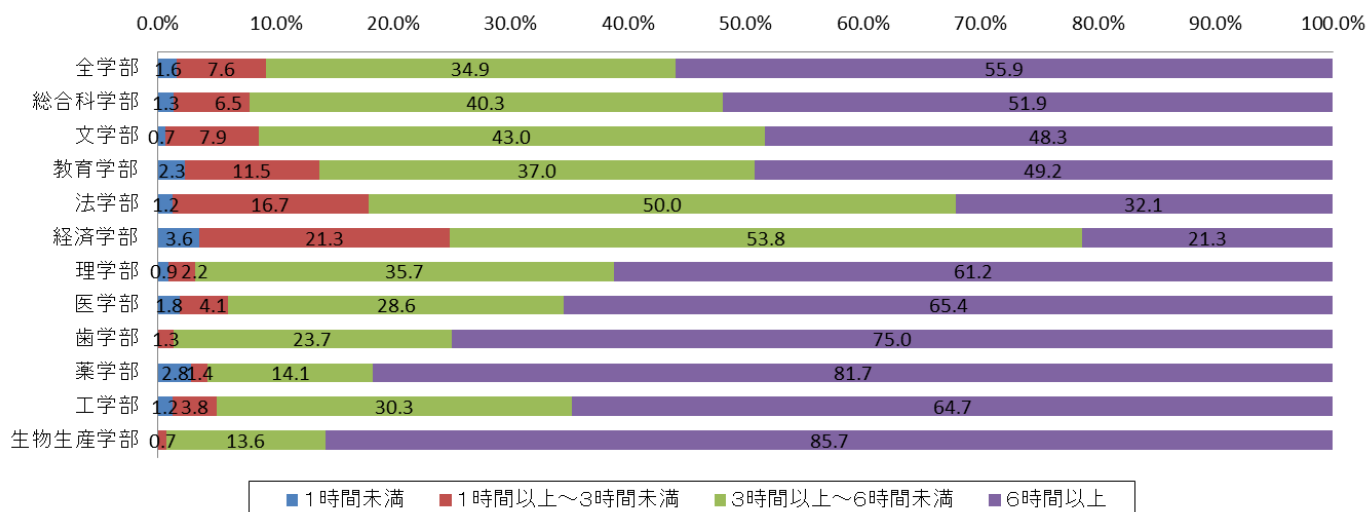
アルバイトに充てている時間は、「月曜から金曜の1時間以上6時間未満」(33.8%)、「土日休の1時間以上6時間未満」(27.1%)、「土日休の6時間以上12時間未満」(25.3%)、「月曜から金曜の6時間以上12時間未満」(24.1%)の順に多くなっている。平日で12時間以上と、週末・休日で12時間以上を合わせると、全体では12.2%となっている。



## 6 大学構内での滞在時間・場所について

**設問8 一日に大学構内にどれくらいの時間滞在していますか。**

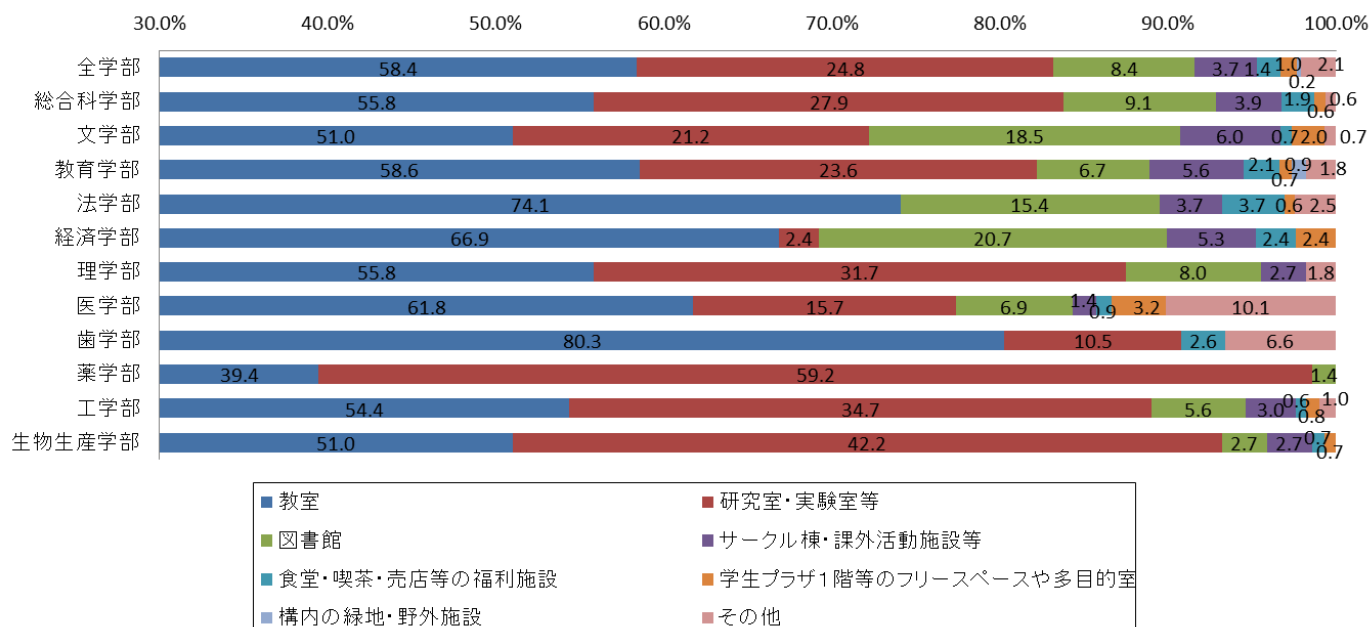
全体では、55.9%の学生が6時間以上構内に滞在している。学部別に見てみると、6時間以上の滞が多いのは生物生産学部、薬学部、歯学部、医学部、工学部、理学部となり、少ないのは、経済学部、法学部となっている。理系学部の学生の方が、文系学部と比べ、長時間構内に滞在しているという傾向があり、これは前回調査と同じである。



## 設問 9 大学構内の滞在時間のうち、1 番多く滞在している場所はどこですか。

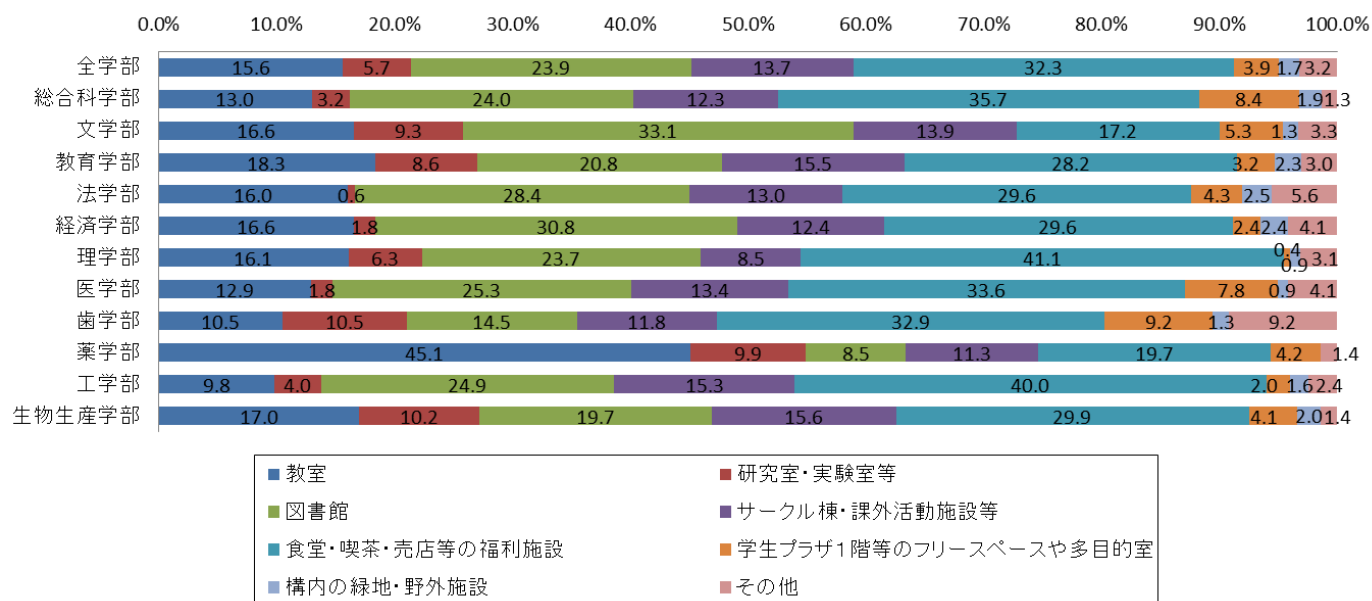
大学構内で一番長く滞在している場所を見てみると、全体では「教室」(58.4%)「研究室・実験室等」(24.8%)、「図書館」(8.4%)の順である。薬学部では、「研究室・実験室等」(59.2%)の滞在が、「教室」(39.4%)を上回っている。

※ グラフの目盛りの最小値は 30%



## 設問 10 大学構内の滞在時間のうち、2 番目に多く滞在している場所はどこですか。

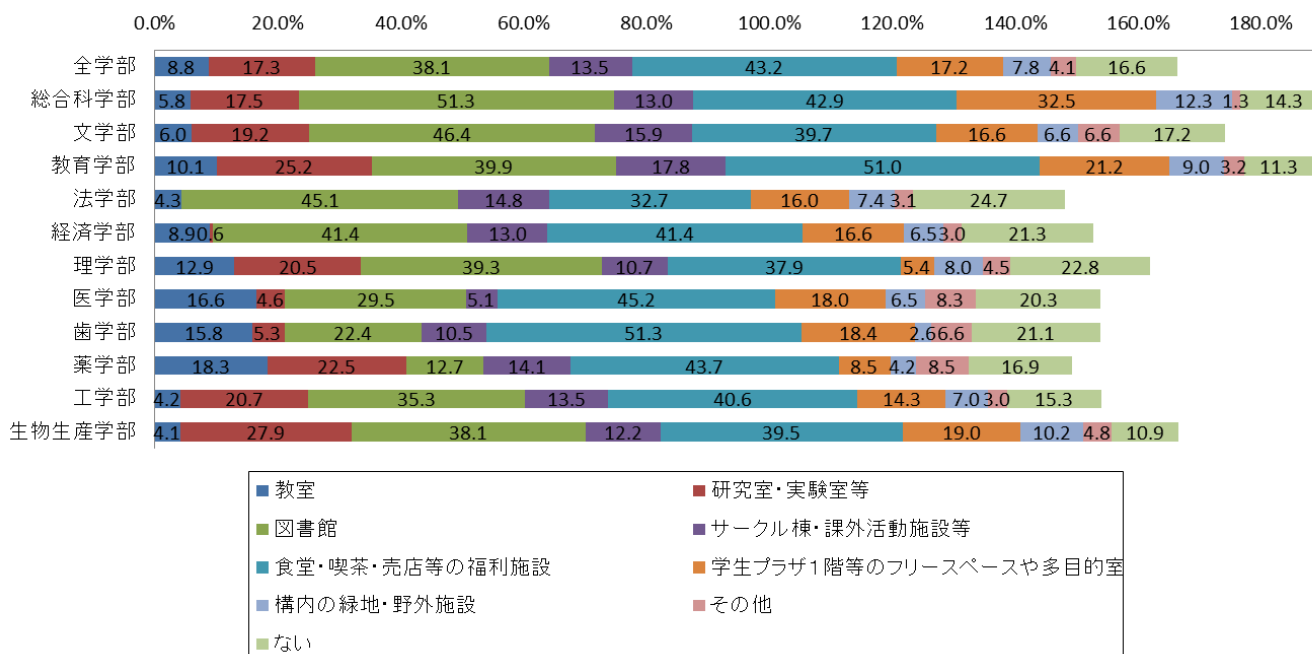
大学構内で 2 番目に長く滞在している場所は、全体では「食堂・喫茶・売店等の福利施設」(32.3%)、「図書館」(23.9%)、「教室」(15.6%)、「サークル棟・課外活動施設等」(13.7%)となっている。



## 7 大学構内でくつろいで過ごせる場所

### 設問 11 大学内にくつろいで過ごせる場所がありますか。(複数回答可)

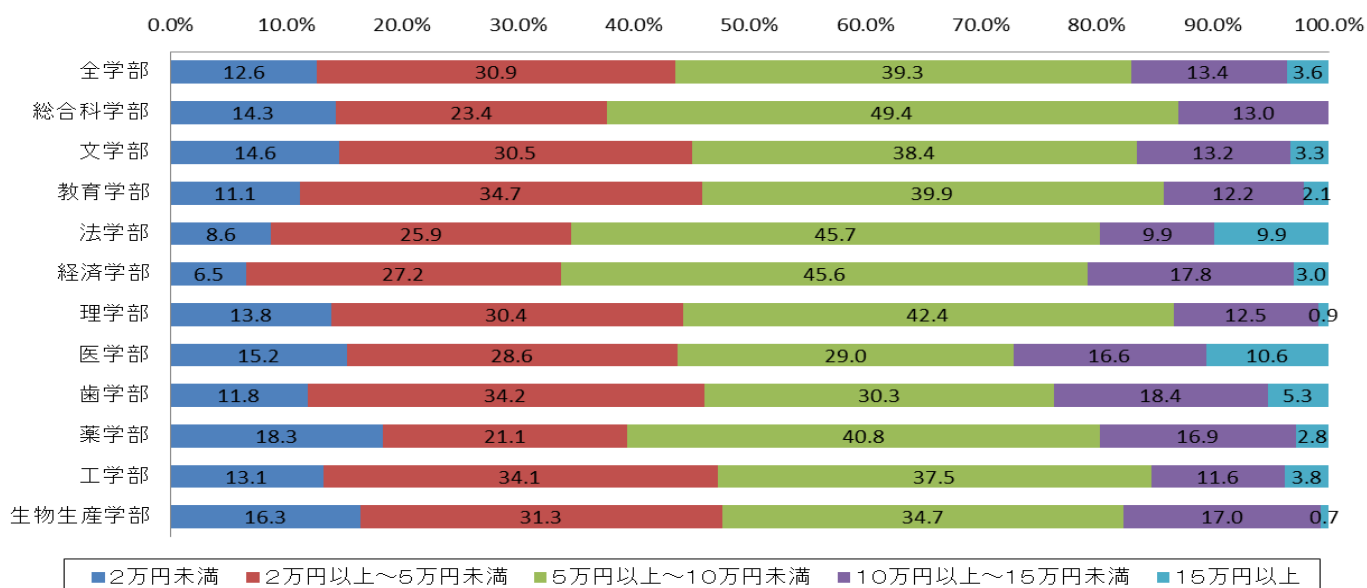
大学構内でくつろいで過ごせる場所は、全体では「食堂・喫茶・売店等の福利施設」(43.2%)、「図書館」(38.1%)「研究室・実験室等」(17.3%)、「学生プラザ1階等のフリースペースや多目的室」(17.2%)の順である。西条キャンパスでは、教育学部・生物生産学部生を除き、福利施設より図書館でくつろげると回答した学生が多い。くつろげる場所がないと回答した学生も、16.6%いる。



## 8 1ヶ月の生計費（収入・支出）

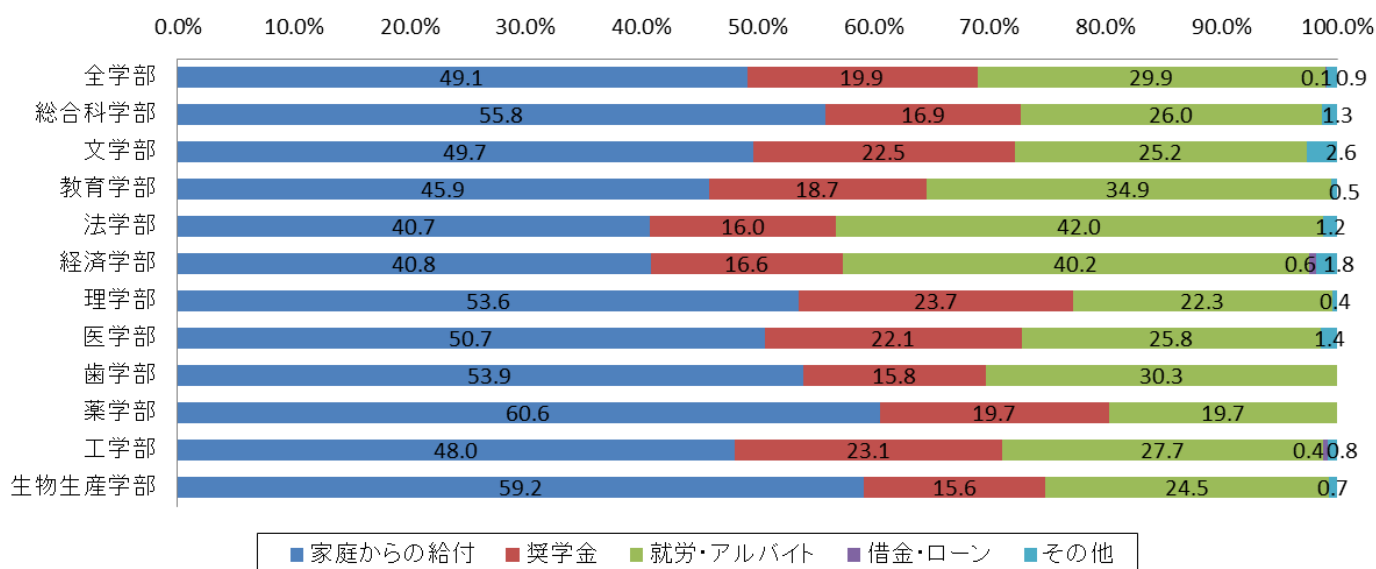
### 設問 12 1ヶ月の収入はいくらですか。

いずれの学部学生についても、2～10万の収入を得ている者がマジョリティとなっている。他学部に比してやや高額な収入を得ているのは、医学部・歯学部であり、10万以上の収入を得ているものがそれぞれ27.2%、23.7%となっている。



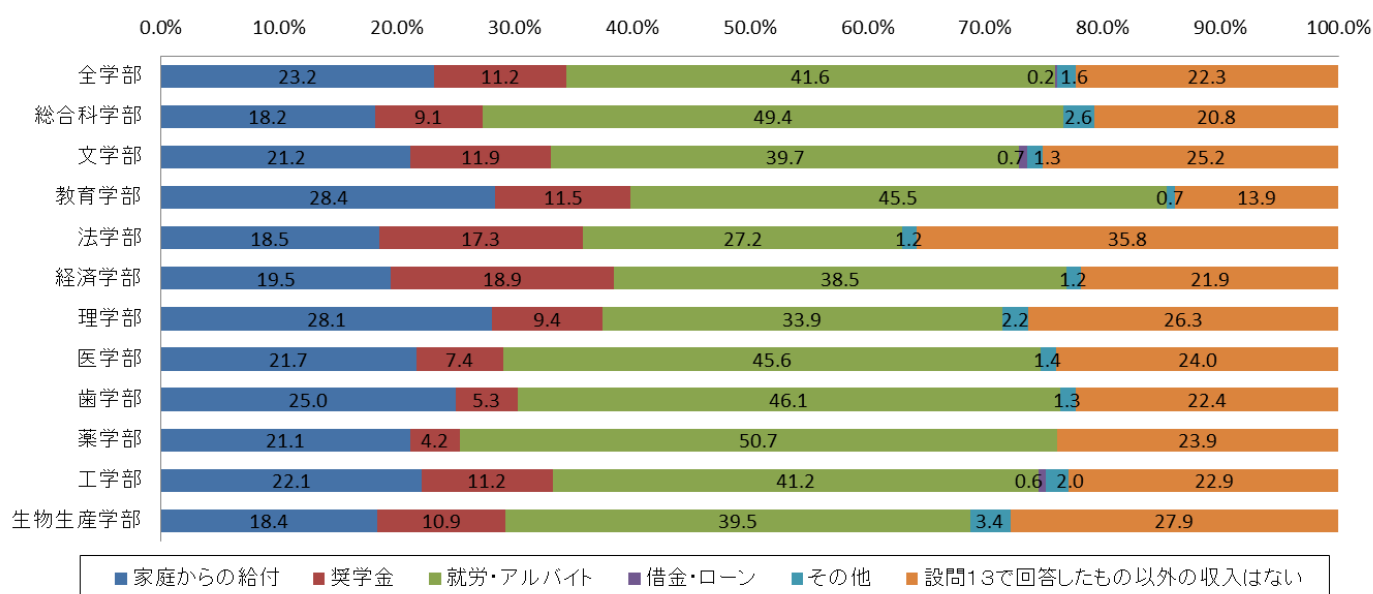
### 設問 13 1ヶ月の収入のうち、1番多い収入は、次のどれですか。

いずれの学部についても、家庭からの給付が最も多いと答えており、回答学生の40～60%を占めている。次いで就労・アルバイト収入（20～40%）、奨学金（15～20%）となっている。この傾向は学部間格差が顕著であり、法・経の学生の40%が1番多い収入として「家庭からの給付」を挙げているのに対し、薬学の学生は60%を越えている。その反面、法・経の学生は「就労・アルバイト」収入を1番多いとしている者が40%程度であるのに対し、薬学の学生は20%程度である点も対照的である。



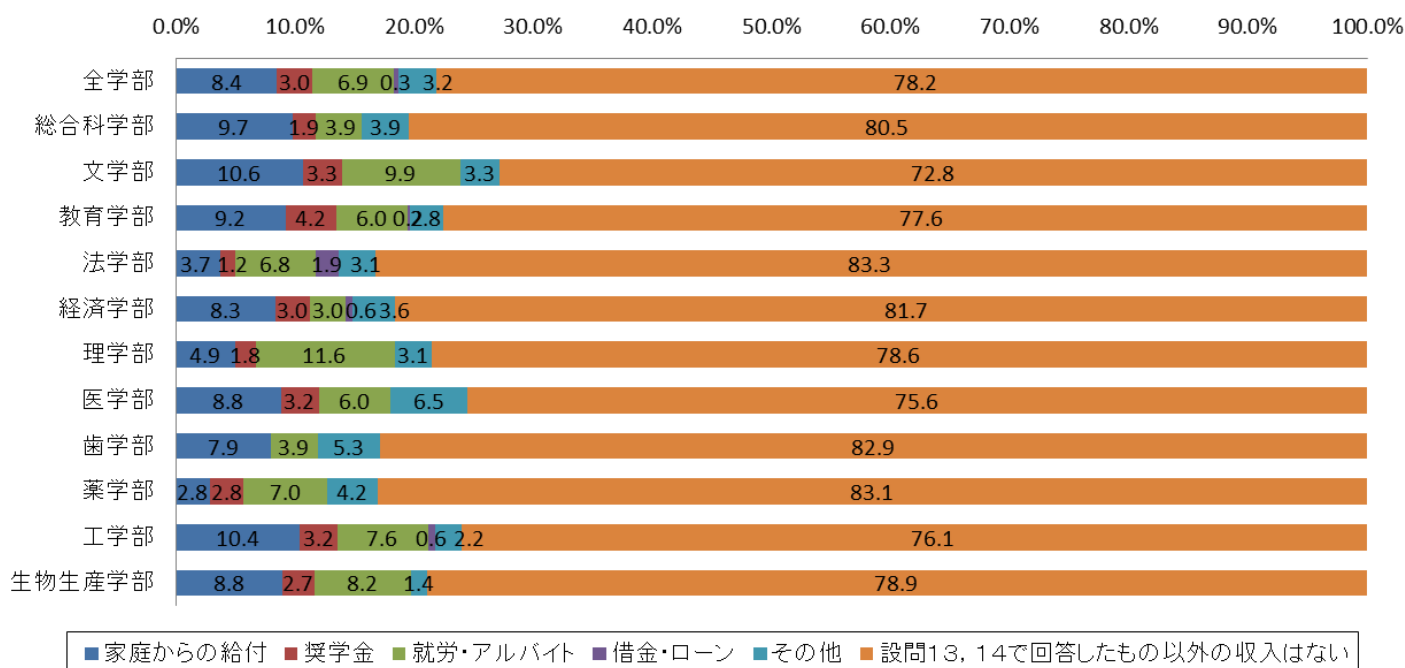
### 設問 14 1ヶ月の収入のうち、2番目に多い収入は、次のどれですか。

法学を除く学部学生が2番目に多い収入として挙げているのが「就労・アルバイト」収入である。法学生は「問13で回答したもの以外の収入はない」と回答したものが35.8%に達し、他学部学生に比して単一収入依存度が極めて高い点が特徴的である。



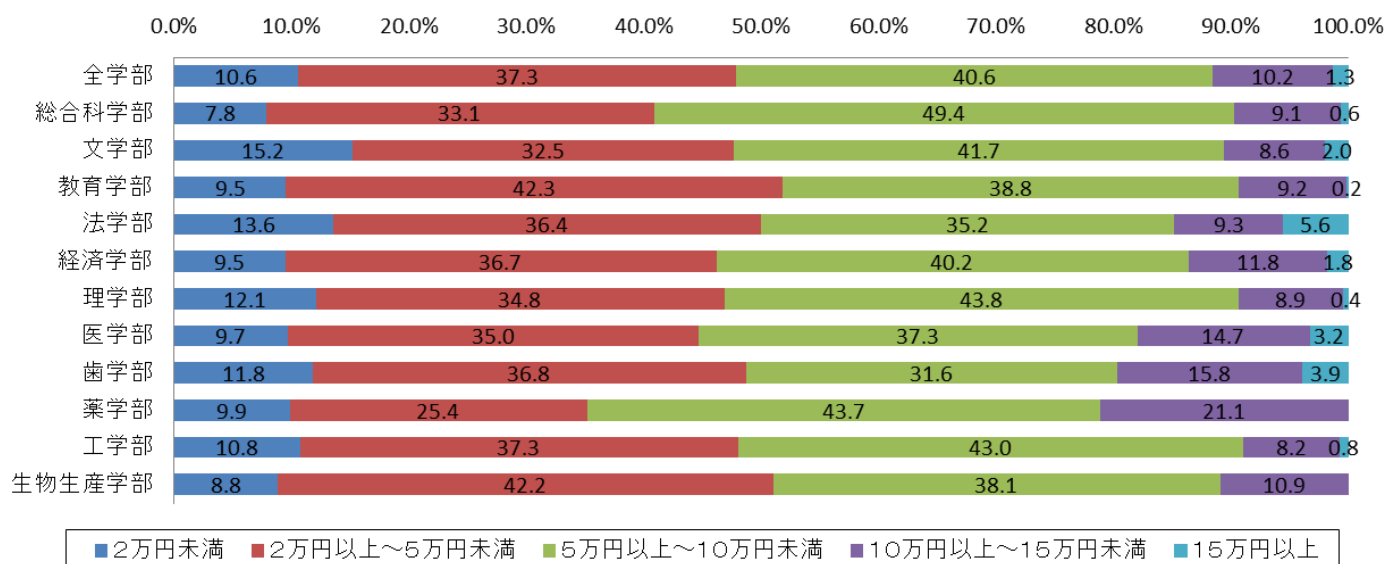
### 設問 15 1ヶ月の収入のうち、3番目に多い収入は、次のどれですか。

どの部局も、「問13, 14で回答したもの以外の収入はない」と答えた学生が最も多く、7～8割に達する。つまり、多くの学生の収入源は、おおよそ2カ所であり、主として家庭からの給付と就労・アルバイトであると言えそうである。



### 設問 16 1ヶ月の支出はいくらですか。

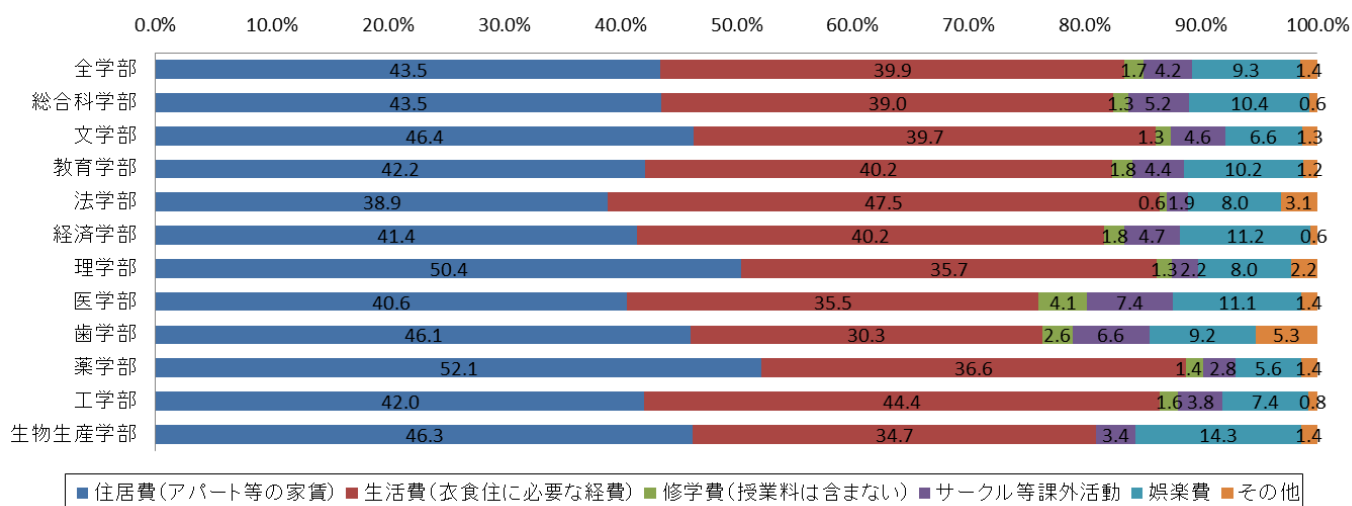
いずれの学部の学生も、2～10万程度の支出がマジョリティである。ただし、他学部に比して支出額の高い層が多いのは、医・歯・薬の3学部である。





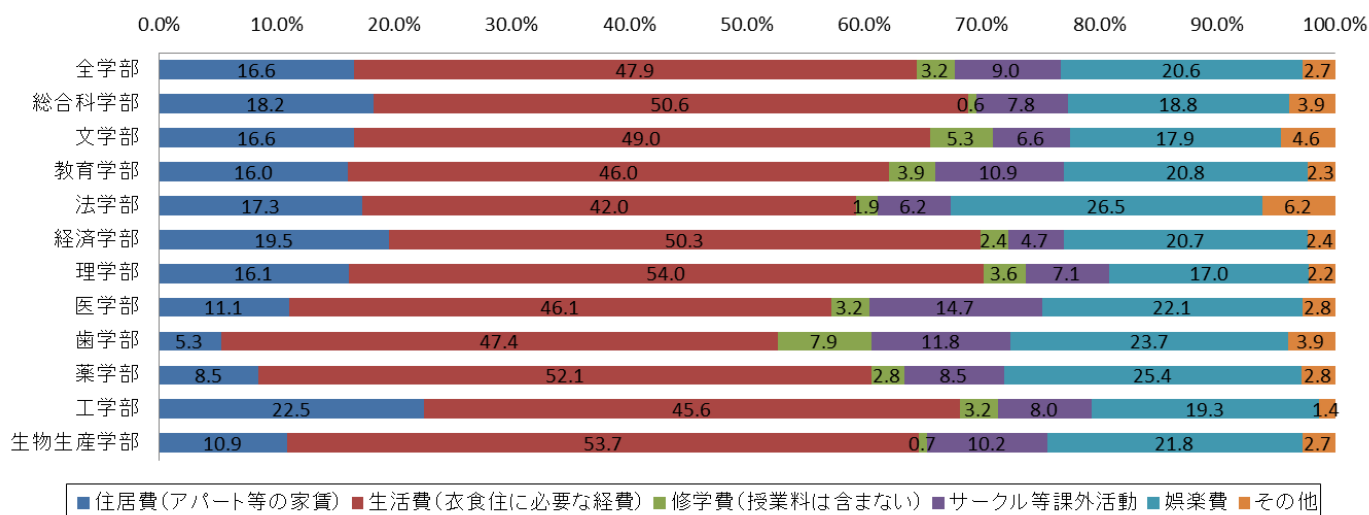
**設問 17 1ヶ月の支出のうち、1番多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。**

いずれの学部学生も、1番多く必要とする経費を「住居費」「生活費」であるとして挙げていることがわかる。ただし、医学部・歯学部学生は、他の学部学生に比して、これら2つの経費を1番として挙げている者の割合が低く、その代わり修学費・サークル等課外活動費を1番多く必要として挙げている者の割合が若干高くなっている。



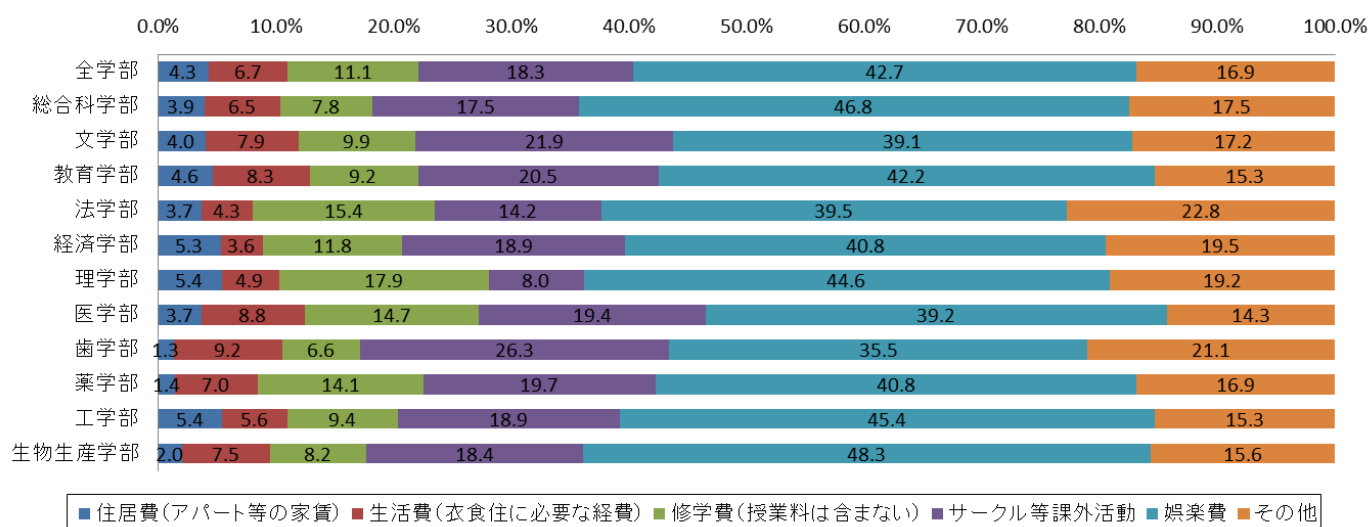
**設問 18 1ヶ月の支出のうち、2番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。**

2番目に多く必要とする経費については、どの学部についても「生活費」を挙げている学生が最も多く、4～5割である。



**設問 19 1ヶ月の支出のうち、3番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。**

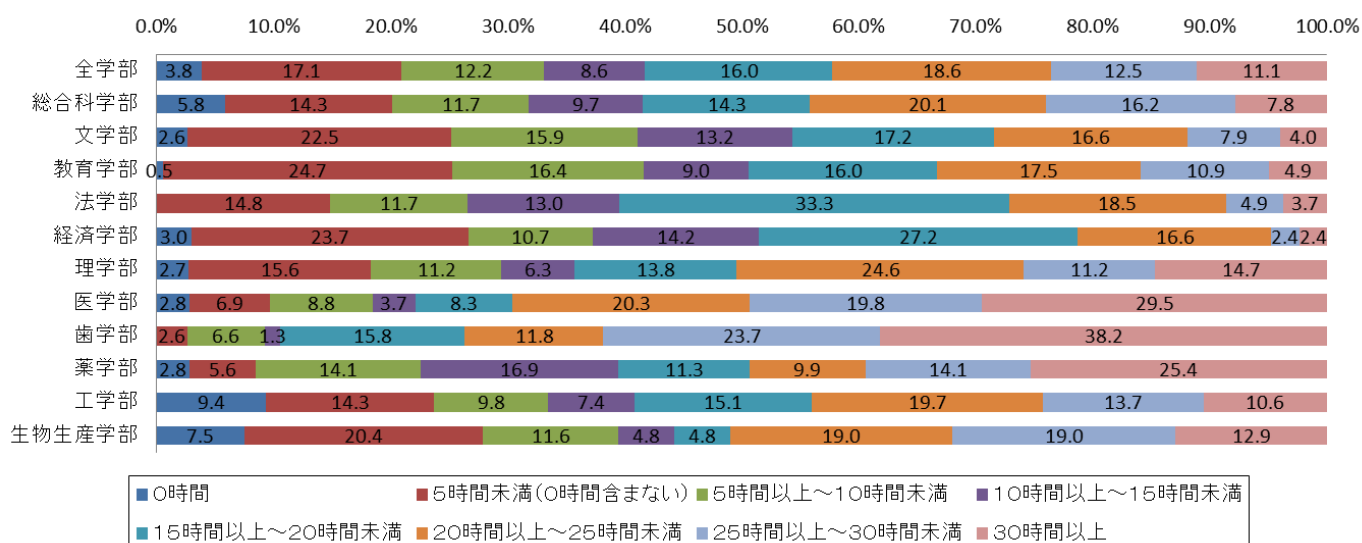
3番目に多く必要とする経費については、どの学部についても「娯楽費」を挙げている学生が最も多く、学生の3～4割である。



## 9 1週間の学習時間

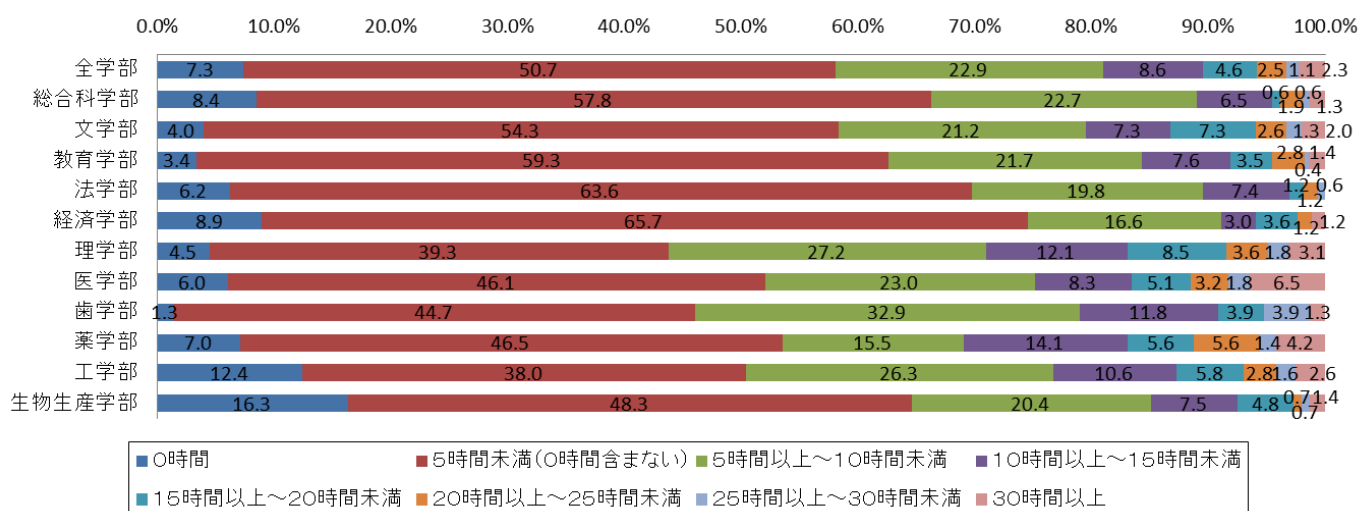
**設問 20 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）への出席にあてていますか。**

授業への出席に当てる時間については、グラフを見ても学部間格差が大きい。このグラフによる分析結果の解釈は慎重になる必要がある。このような差をもたらす要因としては、①専門分野のカリキュラムの特性やそれと連動している資格要件に依存している可能性が考えられる。さらに、②学年による履修形態の違いも反映しているだろう。さらに、③学生個々人の授業外の諸活動とも密接に関わっている可能性がある。専門分野の特性の所産であればこの差を問題にする必要は無いが、②に関しては、特に3、4年生から開始される就職活動との関係、③については、学生生活習慣との関わりがある場合は、教育の質の保証とも関わってくる問題なので、丁寧な要因分解が必要である。



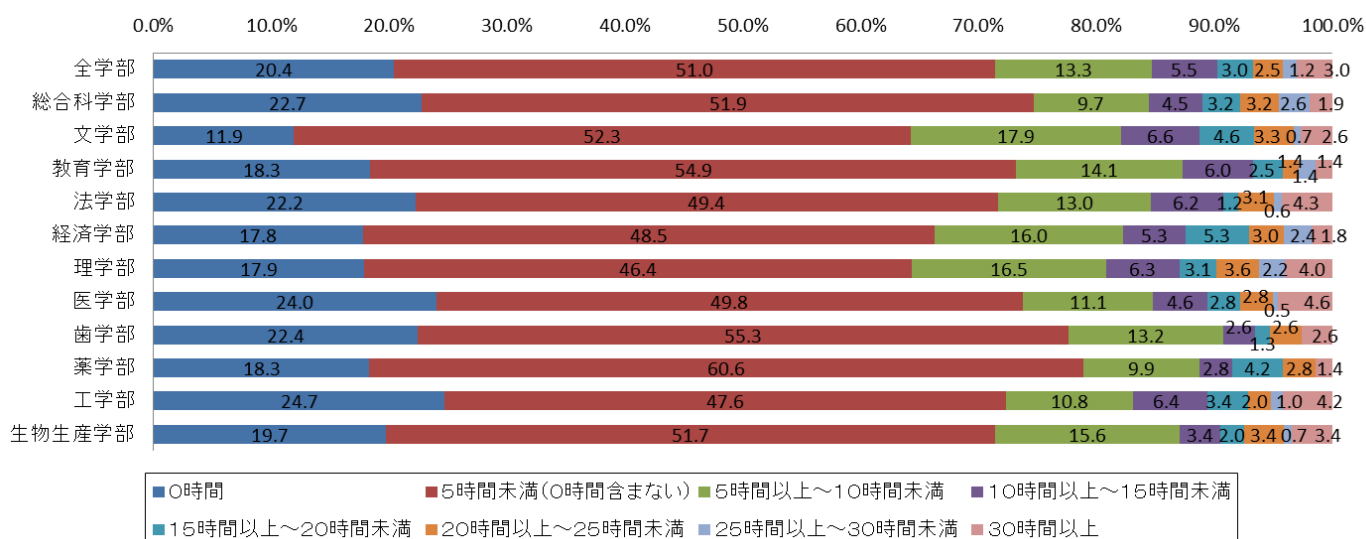
**設問 21 授業期間中、平均して 1 週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の課題、準備・復習にあてていますか。**

授業への出席に当てる時間については、設問 20 と同様、グラフを見ても学部間格差が大きい。このグラフによる分析結果の解釈は慎重になる必要がある。このような差をもたらす要因としては、①専門分野のカリキュラムの特性やそれと連動している資格要件に依存している可能性が考えられる。さらに、②学年による履修形態の違いも反映しているだろう。さらに、③学生個々人の授業外の諸活動とも密接に関わっている可能性がある。専門分野の特性の所産であればこの差を問題にする必要は無いが、②に関しては、特に 3, 4 年生から開始される就職活動との関係、③については、学生の生活習慣との関わりがある場合は、教育の質の保証とも関わってくる問題なので、丁寧な要因分析が必要である。



**設問 22 授業期間中、平均して 1 週間でどれくらいの時間を授業とは関係のない自主的な学習にあてていますか。**

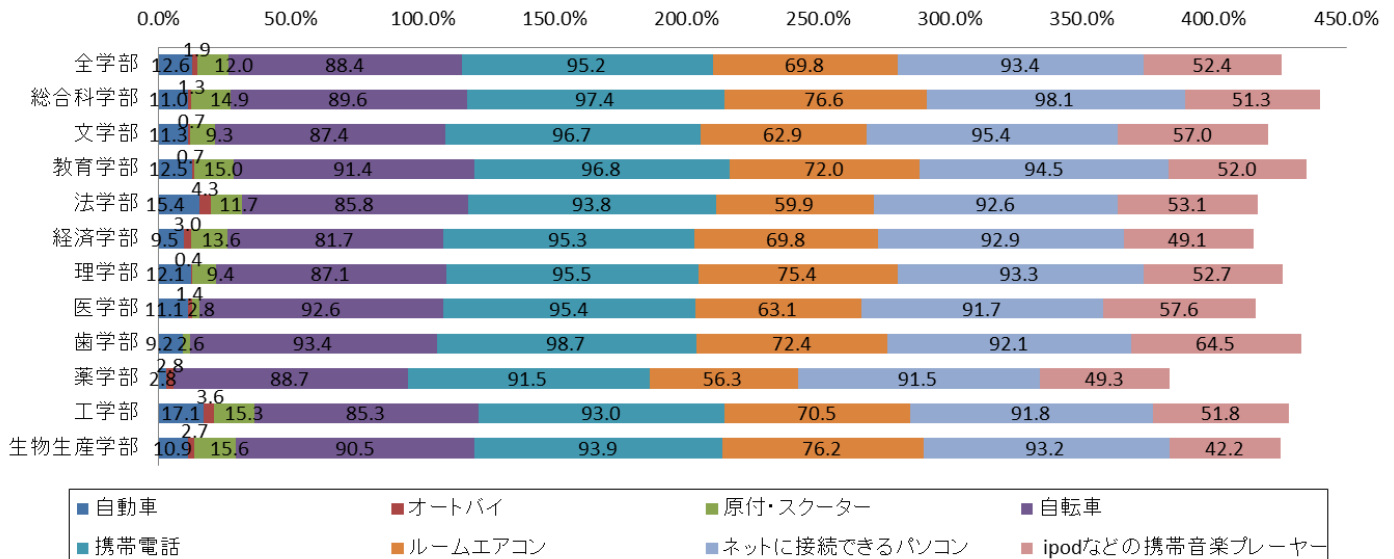
学部間格差は比較的小さく、「5 時間未満」と答える学生がどの学部についても 5 割前後である。ただしこの設問は、設問 21 とも共通する問題を抱えており、「5 時間未満」のカテゴリの幅が理論上 0h < t < 5h とかなり大きい。30 分も勉強しない学生と 5 時間近く勉強する学生が同一カテゴリにまとめられてしまうこのカテゴリでは、学生の学習状況を把握するには用をなさない。



## 10 所有もしくは占有している物

### 設問 23 所有もしくは専用物がありますか。(複数回答可)

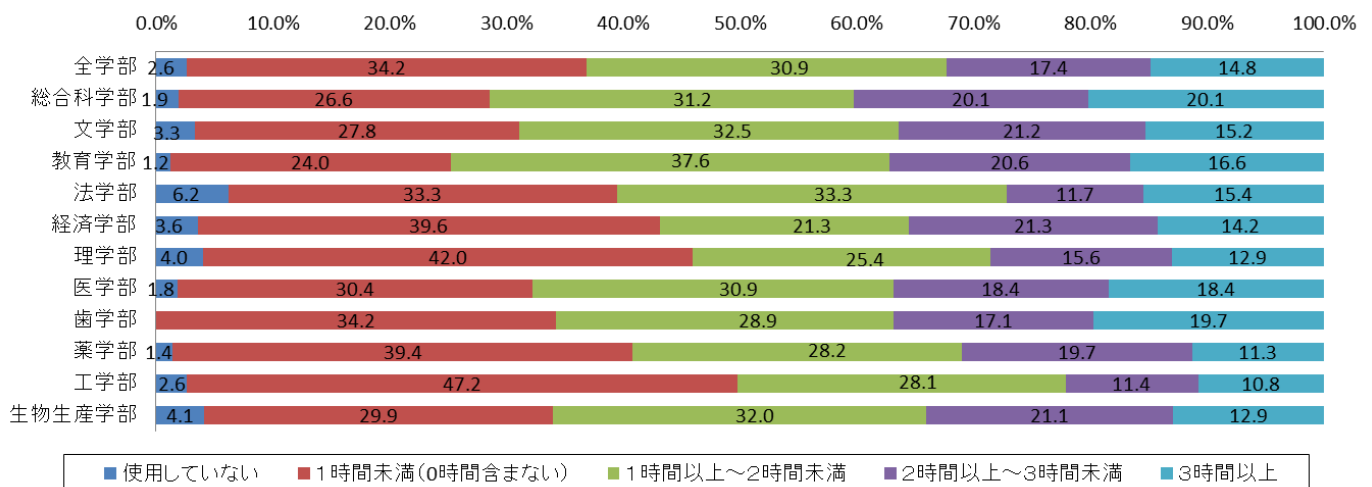
所有率をみると、移動手段としては、「自転車」(88.4%)、「自動車」(12.6%)、「原付・スクーター」(12.0%)の順である。「携帯電話」(95.2%)、「ネットに接続できるパソコン」(93.4%)の所有率は相当に高く、「ipod などの携帯音楽プレーヤー」(52.4%)の所有率も比較的高い。



## 11 Social Network Service の使用状況について

### 設問 24 Facebook・mixi・LINE・Twitter 等の SNS(Social Network Service) を 1 日でどれくらいの時間使用していますか。

全体として、SNS を「使用していない」学生は 2.6%であり、前回（平成 26 年度）の 6.6%より、さらに少なくなっている。使用時間が 1 時間以上の学生は 63.1%であり、全体として、1 日のかなりの時間を SNS に費やしているといえる。

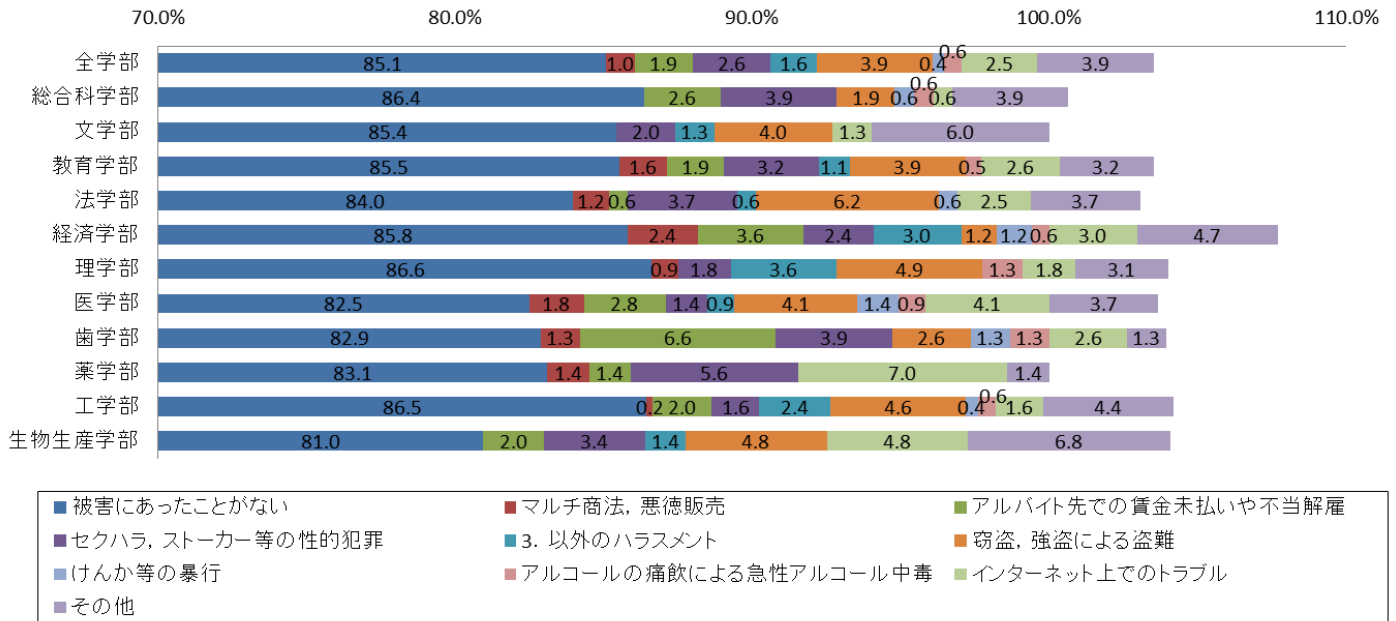


## 1 2 犯罪やトラブルなどの被害経験

**設問 25 学生生活において、何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験したことがありますか。**  
(複数回答可)

全体として、何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験したことがある学生は 14.9%であり、前回(平成 26 年度)(16.4%)と同程度である。被害・トラブルの状況について、全体として、「窃盗、強盗による盗難」(3.9%)、「セクハラ、ストーカー等の性的犯罪」(2.6%)、「インターネット上のトラブル」(2.5%)の順であるが、学部別にみると、状況はいろいろであり、例えば、薬学部では、「インターネット上のトラブル」(7.0%)が最も多い。

※ グラフの目盛りの最小値は 70.0%

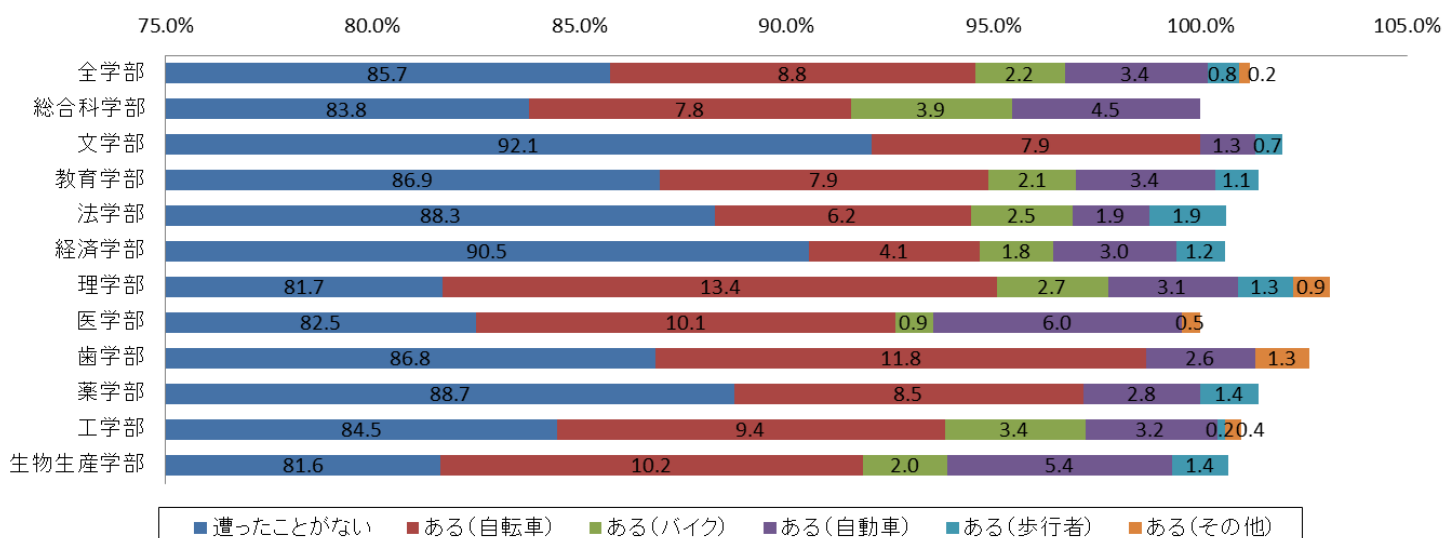


## 1 3 交通事故の経験

**設問 26 在学中交通事故に遭ったことがありますか。(複数回答可)**

全学部合計では、在学中交通事故遭遇の割合は約 15%であり、その半数以上を自転車事故が占める。前回(H26)と比較してバイク事故は減少が見られるが、バイク事故と自動車事故を合計した遭遇割合も依然として 5%を超えており、一層の注意を呼び掛けたい。

※ グラフの目盛りの最小値は 75%

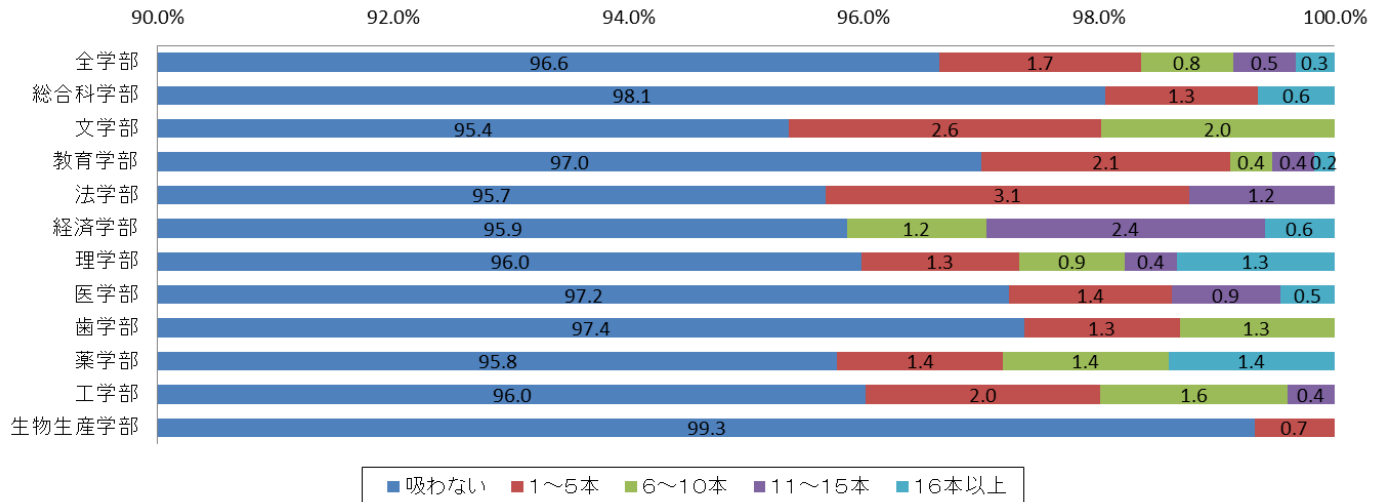


## 1 4 喫煙及び飲酒の習慣

### 設問 27 喫煙の習慣がありますか。1 日に吸う本数をお答えください。

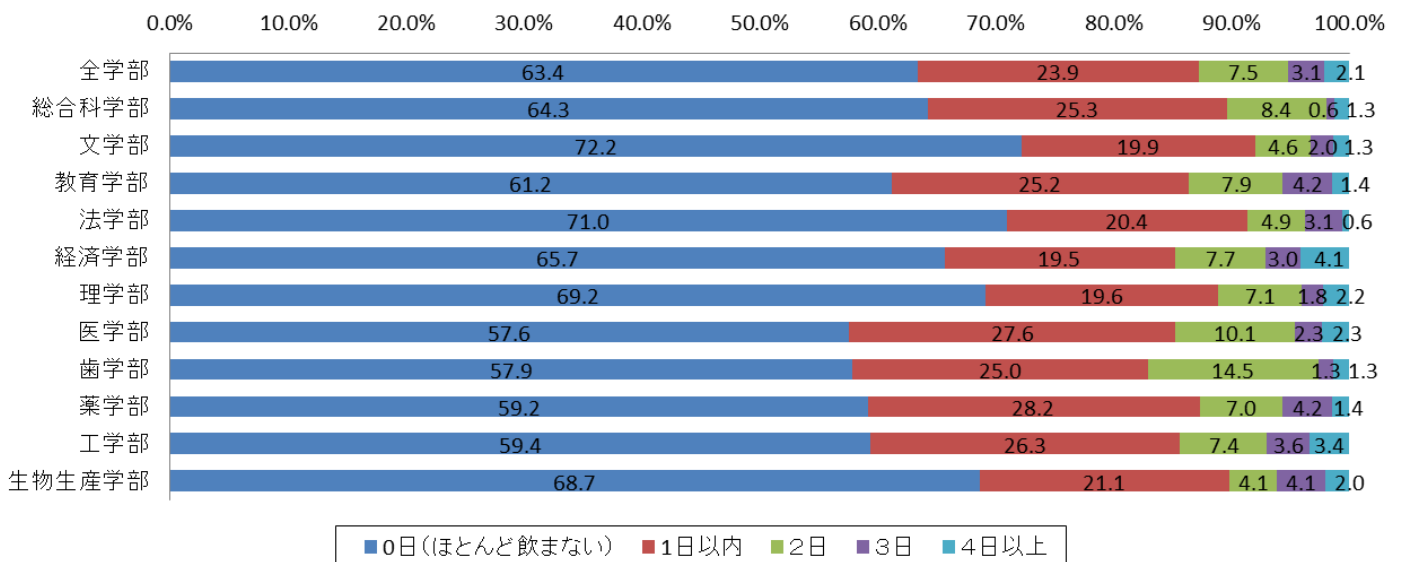
習慣的に喫煙している者の割合は 3.4%であり、前回（3.6%）と同様であった。これまでの調査から喫煙習慣のある者の割合は、7.0%(H20)、5.9%(H22)、3.9%(H24)と年々減少傾向にある。

※ グラフの目盛りの最小値は 90%



### 設問 28 飲酒の習慣がありますか。1 週間に飲む日数をお答えください。

週 3 日以上飲酒習慣のある者の割合は 5.2%であり、前回（4.1%）から微増している。また、週 1 回程度飲酒する者の割合も 23.9%と、前回（20.7%）に比べてやや増加している。



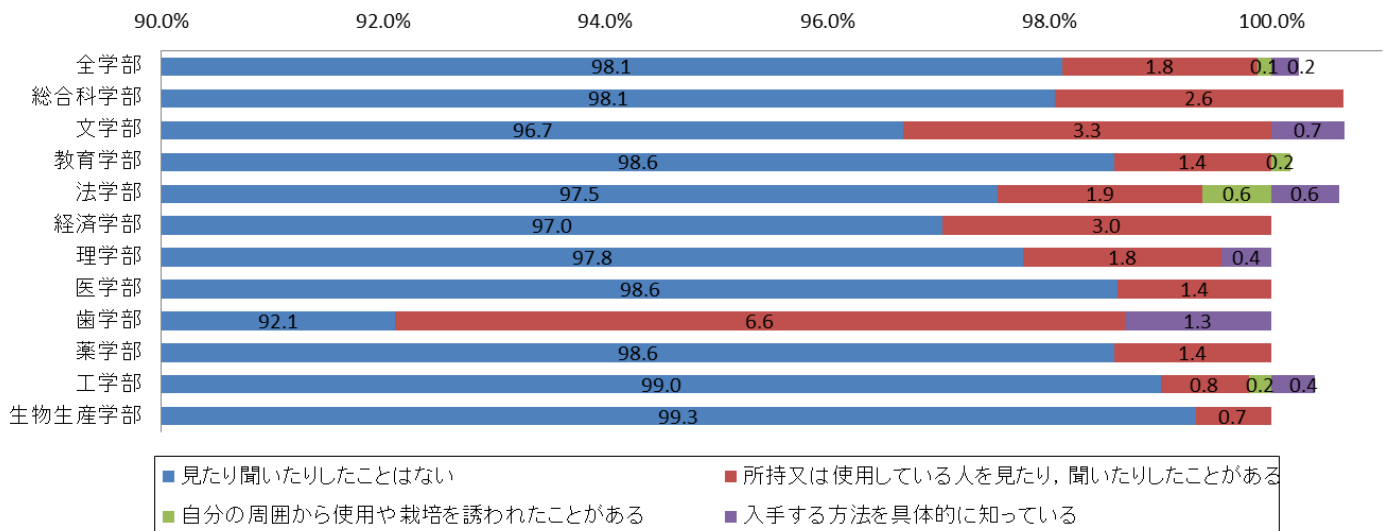
## 15 薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について

### 設問 29 薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について、該当するものを選択してください。（授業・研究目的のものは除く）（複数回答可）

全体としては 98.1%が「見たり聞いたりしたことはない」と回答しており、前回(98.0%)と同様の結果であった。しかしながら、「所持又は使用している人を見たり聞いたりしたことがある」が全ての学部において存在し、全体の割合としては 1.8%となっており、歯学部では 6.6%と他学部より高い割合を示していた。

（回答数が少ないために割合が高く出ているケースがあり、この場合、実数は少ないので留意されたい。なお、集計結果を踏まえた適切な指導を該当学部等に依頼済である。）

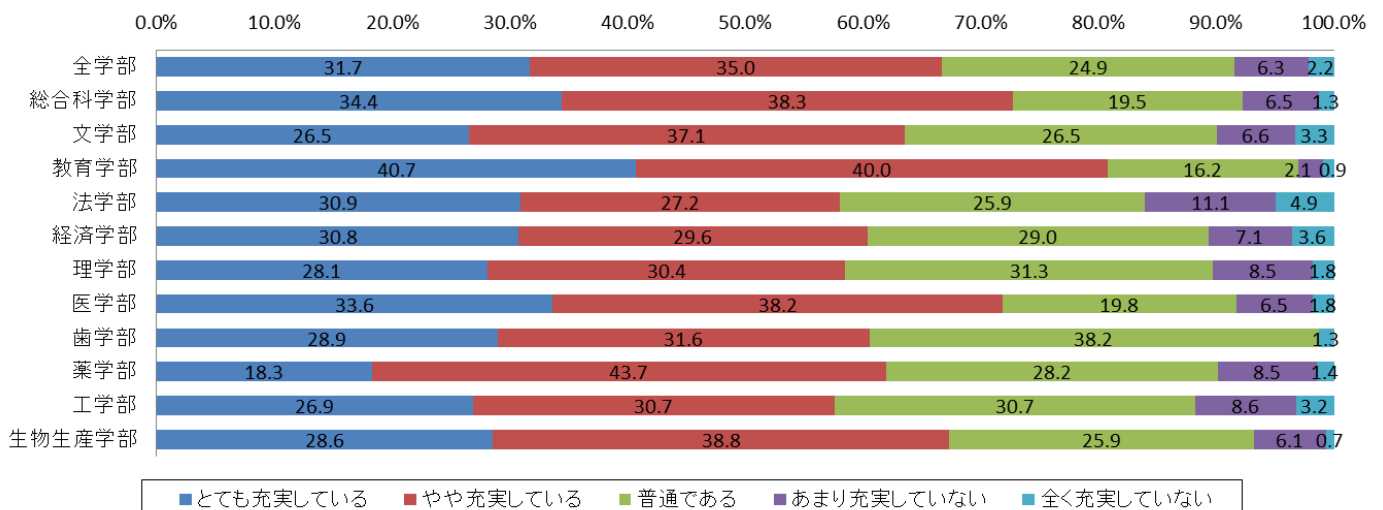
※ グラフの目盛りの最小値は 90%



## 16 授業以外の学生生活の充実度

### 設問 30 授業以外の学生生活を充実して過ごしていますか。

全学部を合計すると「とても充実している」と「やや充実している」を合わせて約 67%で、前回 (H26) の約 71%からやや減少した。「全く充実していない」と「あまり充実していない」を合わせると約 8%であり、教育学部では約 3%（前回は約 4%）と他学部以上に低い割合を保っている。

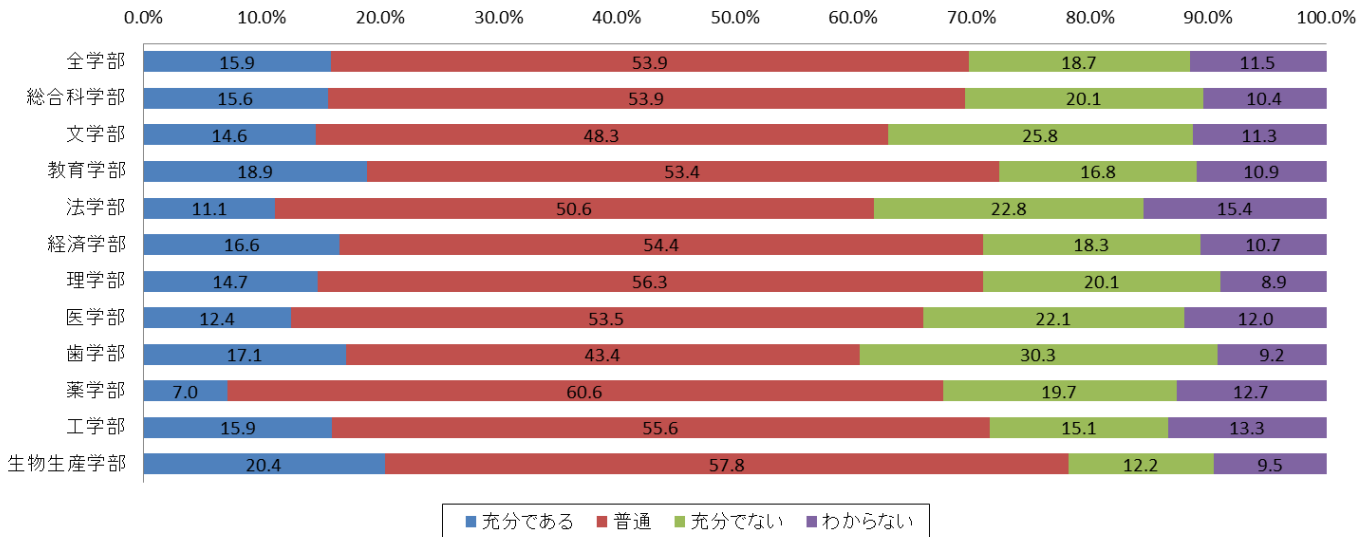




## 17 授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス

**設問 31 授業以外の学生生活に関して、大学側のサポート（支援）体制やサービス内容・メニューは、全般的に見て充分だと思いますか。**

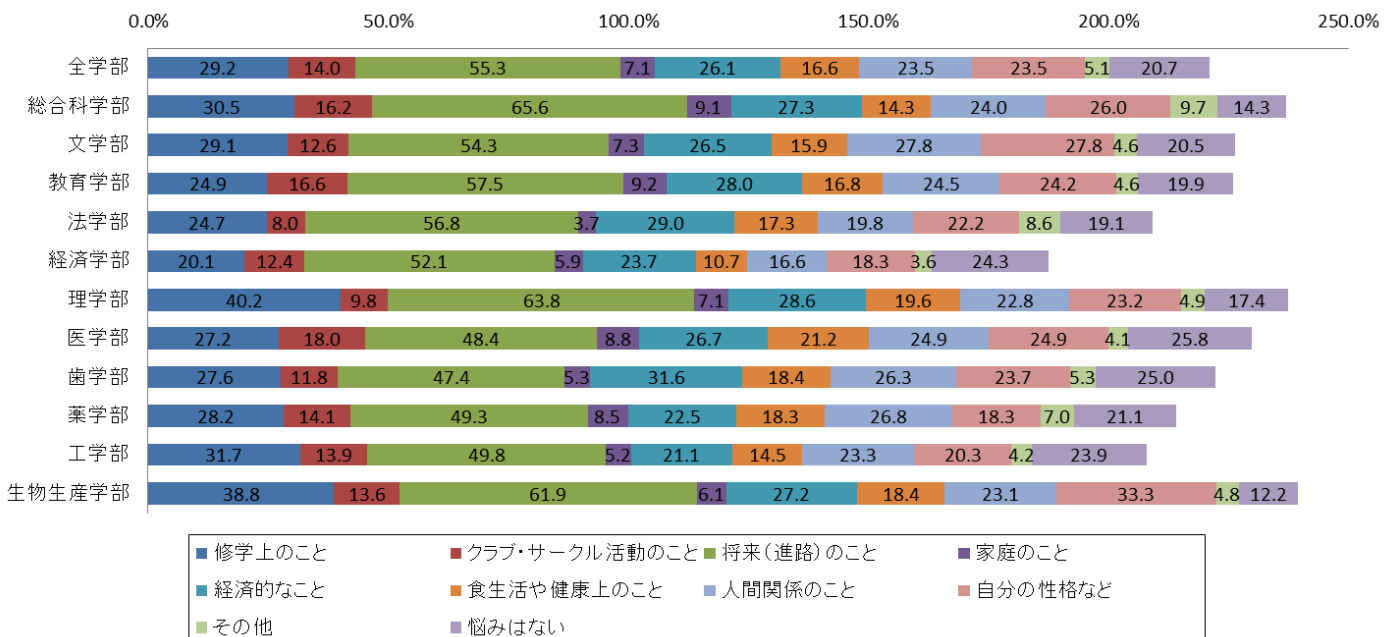
前回（H26）から大きな変化は見られない。全学部合計では「充分でない」が「充分である」をやや上回っており、さらなる改善の余地も窺わせる。



## 18 学生生活の悩み

**設問 32 学生生活の中で悩みがありますか。（複数回答可）**

学生生活上の悩みとして、全ての学部で「将来（進路）のこと」という回答がもっとも多かったが、医学部・歯学部・薬学部・工学部では他の学部比べてその割合が低く、総合科学部・理学部・生物生産学部では高かった。これは前回と同様の結果であった。理学部では「修学上の悩み」が40.2%と他に比べて高かった。「経済的なこと」は26.1%と前回に比して5%減少していたが、4人に1人は経済的な悩みを抱えている。



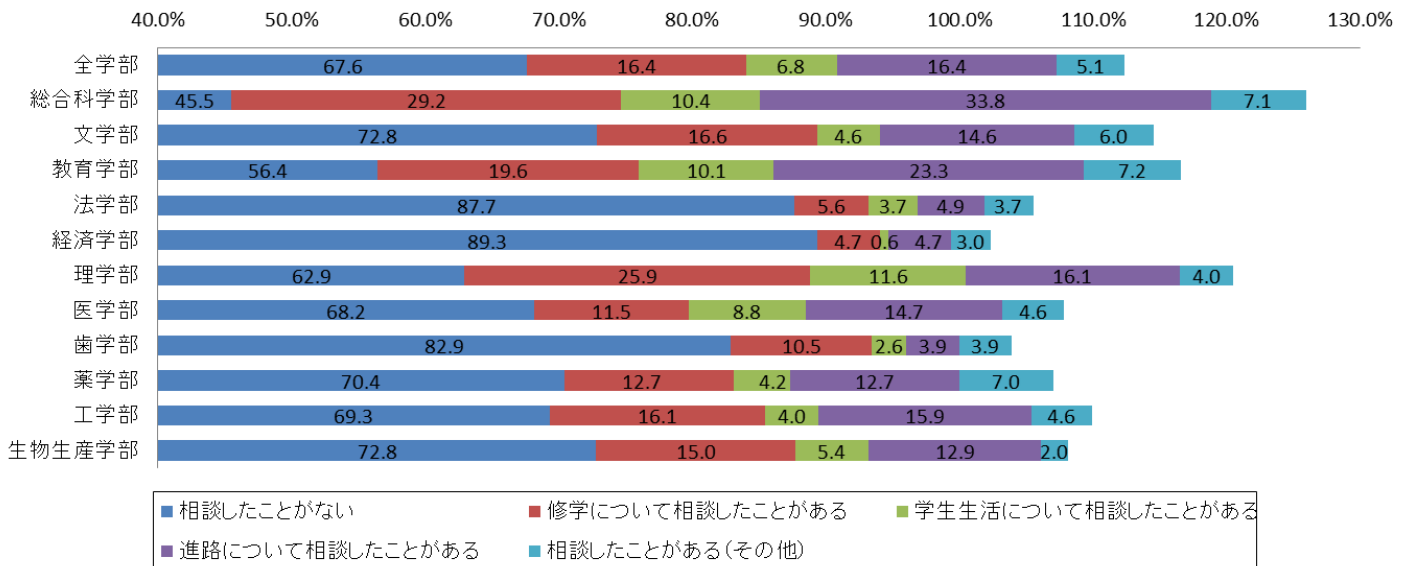


## 19 チューターへの相談と相談内容

**設問 33 修学や学生生活に関して相談するチューター教員がいますが、チューターに相談したことがありますか。相談したことがある場合は、相談内容を選択してください。（複数回答可）**

全体としては3人に1人がチューターへの相談経験を有するという結果であったが、学部によってばらつきがある。前回同様、総合科学部と教育学部は約半数が相談経験を有し、法学部と経済学部では9割近くが相談経験なしと回答していた。前回に比べて相談率が低下していたのは、生物生産学部（37.8%→27.2%）と歯学部（31.0%→17.1%）であった。相談内容については、修学に関するものと進路に関することが多く、前回同様の結果であった。

※ グラフの目盛りの最小値は40%

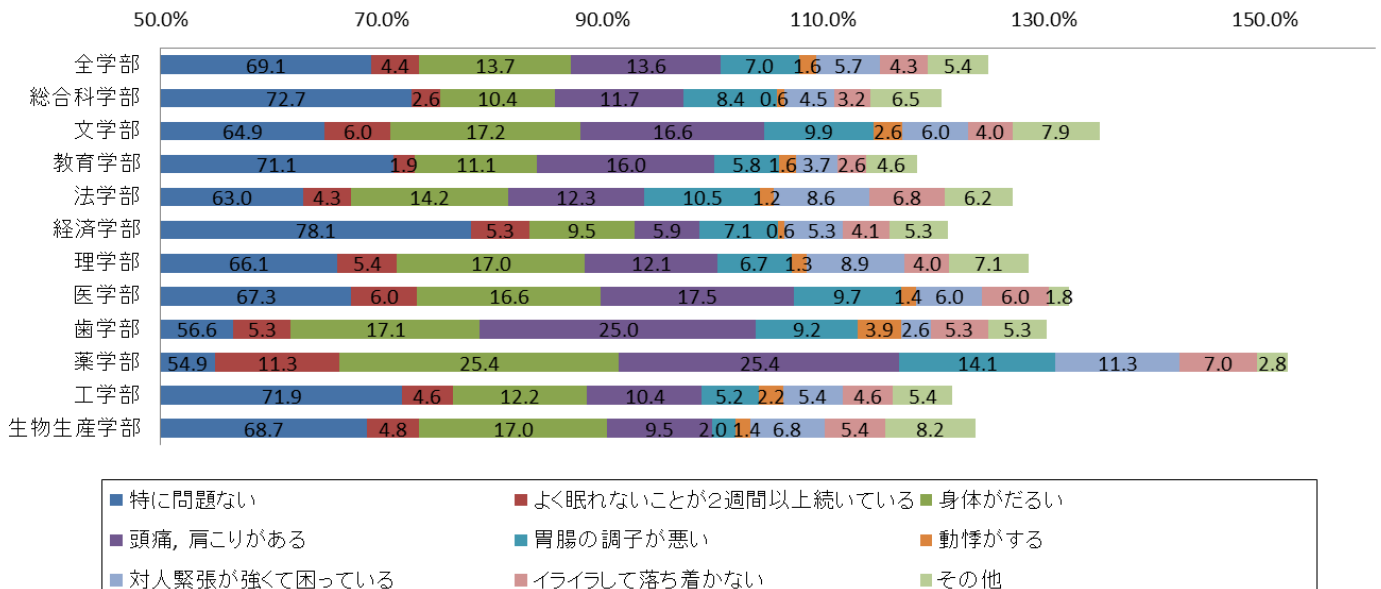


## 20 現在の健康状態

**設問 34 現在の健康状態はどうか。（複数回答可）**

全体としては7割近くが健康上の問題はないという結果であった。前回に比べて「特に問題がない」という回答の割合が減少していたのは、歯学部（66.2%→56.6%）と薬学部（69.6%→54.9%）であった。薬学部では「2週間以上の不眠」11.3%の他、体調不良を有する割合が他学部より高かった。

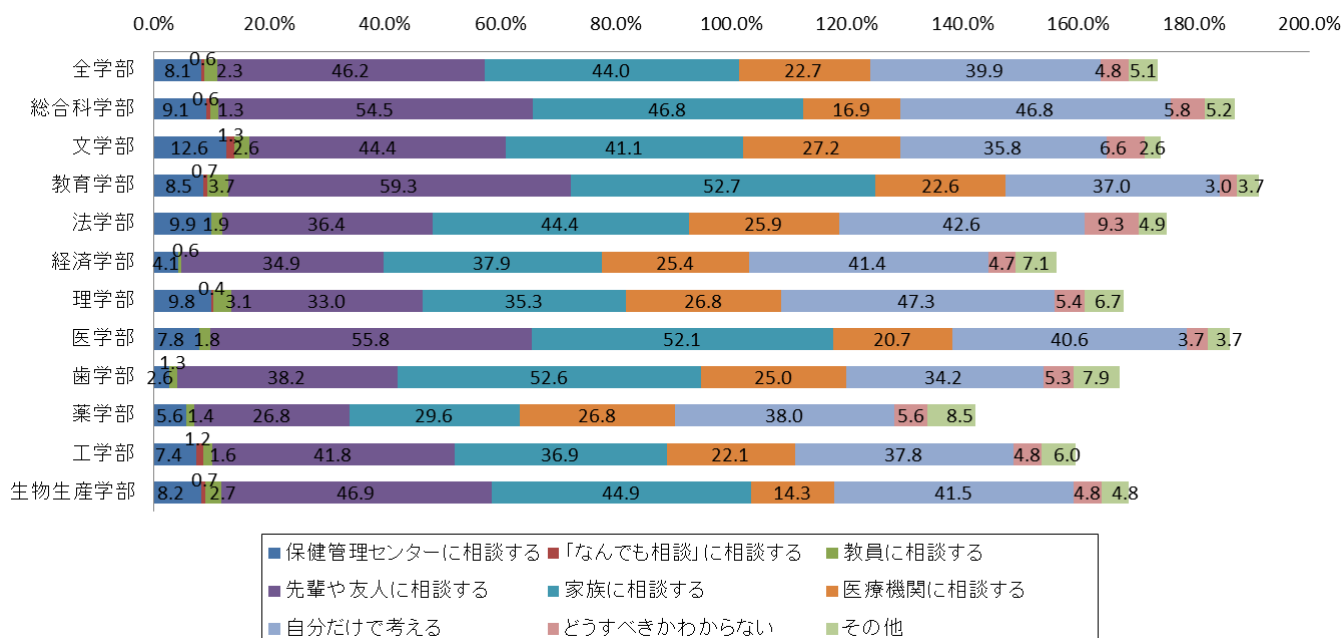
※ グラフの目盛りの最小値は50%



## 2 1 身体面、心理面の悩みの解消

### 設問 35 身体面、心理面で何か悩みが生じた場合には、解消に向けてどうしますか。(複数回答可)

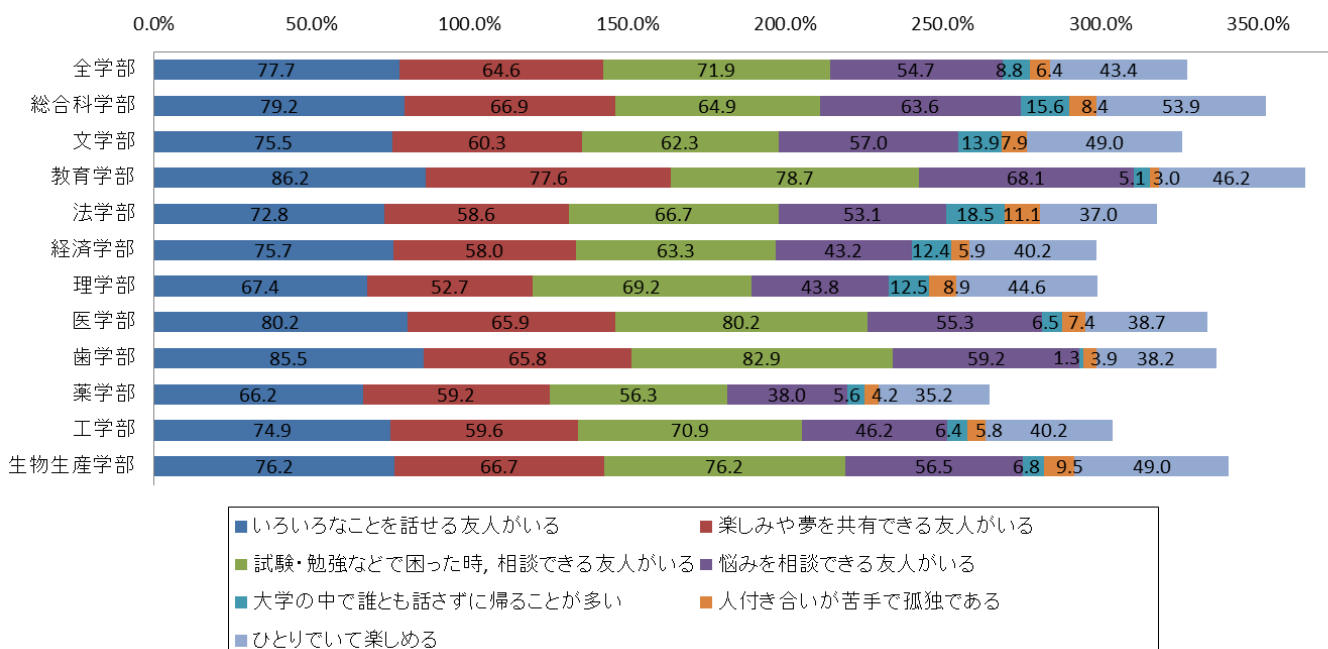
相談する相手としてもっとも多かったのが「先輩や友人」46.2%であり、次に「家族」44.0%、「医療機関」22.7%、「保健管理センター」8.1%と、前回調査と同様の結果であった。



## 2 2 友人との関係

### 設問 36 友人についてお尋ねします。(複数回答可)

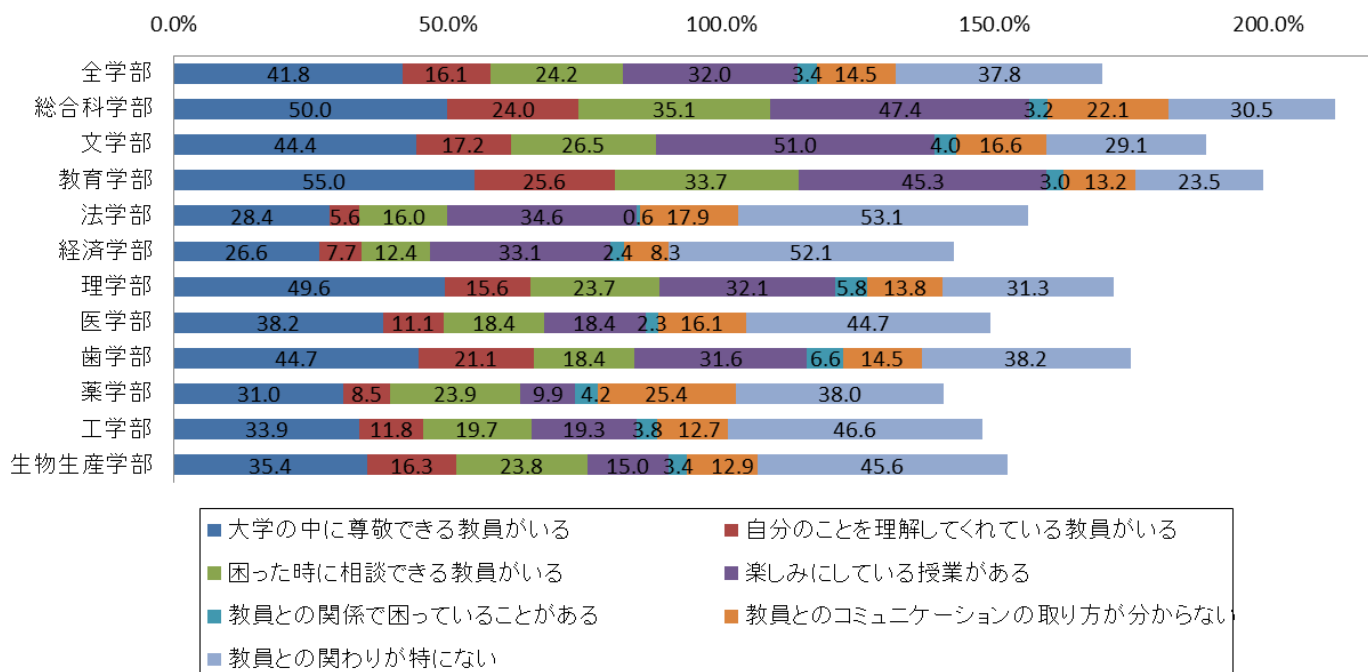
全学部合計では「いろいろなことを話せる友人がいる」77.7%、「試験・勉強などで困った時相談できる友人がいる」71.9%、「楽しみや夢を共有できる友人がいる」64.6%、「悩みを相談できる友人がいる」54.7%と、前回と同様の傾向であった。一方、「大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い」が8.8%、「人付き合いが苦手で孤独である」という回答が6.4%あり、この割合も前回同様の傾向であった。



## 2 3 教員との関係

### 設問 37 教員についてお尋ねします。(複数回答可)

全学部合計では「尊敬できる教員がいる」約 42%、「楽しみにしている授業がある」約 32%、「困ったときに相談できる教員がいる」約 24%など、良好な関係の回答が多い。一方で「教員との関わりが特にない」との回答も約 38%存在する。法学部と経済学部では良好な関係の回答の割合がやや低く、「関わりが特にない」が半数に達する。

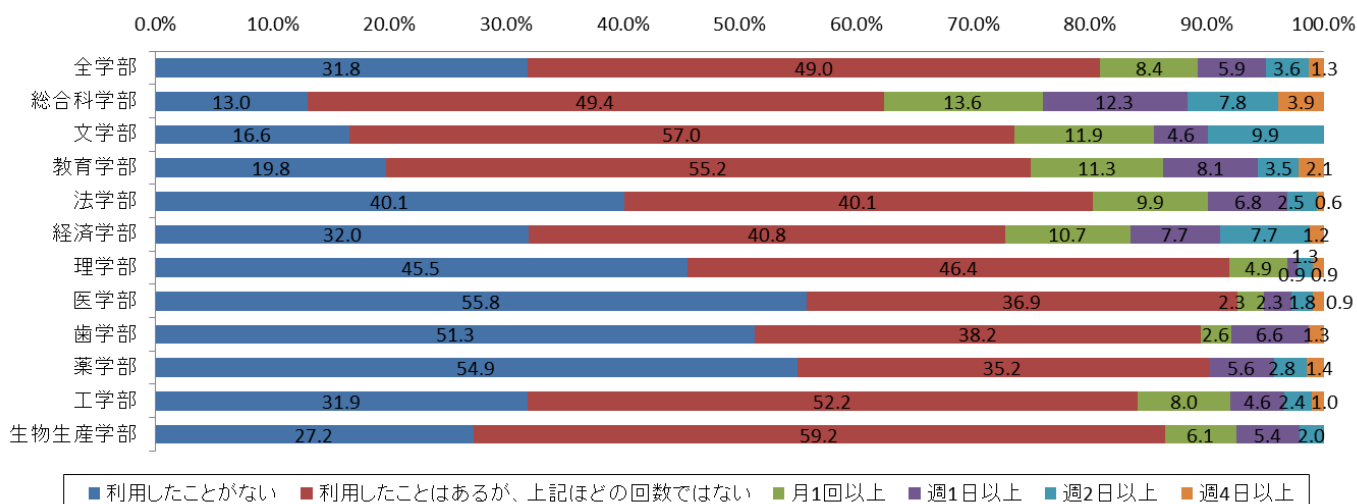


## 2 4 学生交流スペースの利用

### 設問 38 「学生プラザ 1 階のフリースペース」や「西第 1 福利会館」の集会室を利用したことがありますか。利用している場合、どのくらいの頻度で利用しますか。

全体の 68.2%が利用したことがあり、前回調査よりも 4%ほど利用者は減っている。

学部別では、「学生プラザ」,「西第 1 福利会館」に近い総合科学部の利用頻度が高く、文学部, 教育学部がそれに続いている。一方、東広島キャンパスに通う機会の少ない医学部, 歯学部, 薬学部の利用者が少なく、これは前回調査と同様の傾向である。東広島キャンパスに所在する学部では法学部, 理学部の利用者が少ない。



## 2 5 所属学部 of 学生支援室の対応

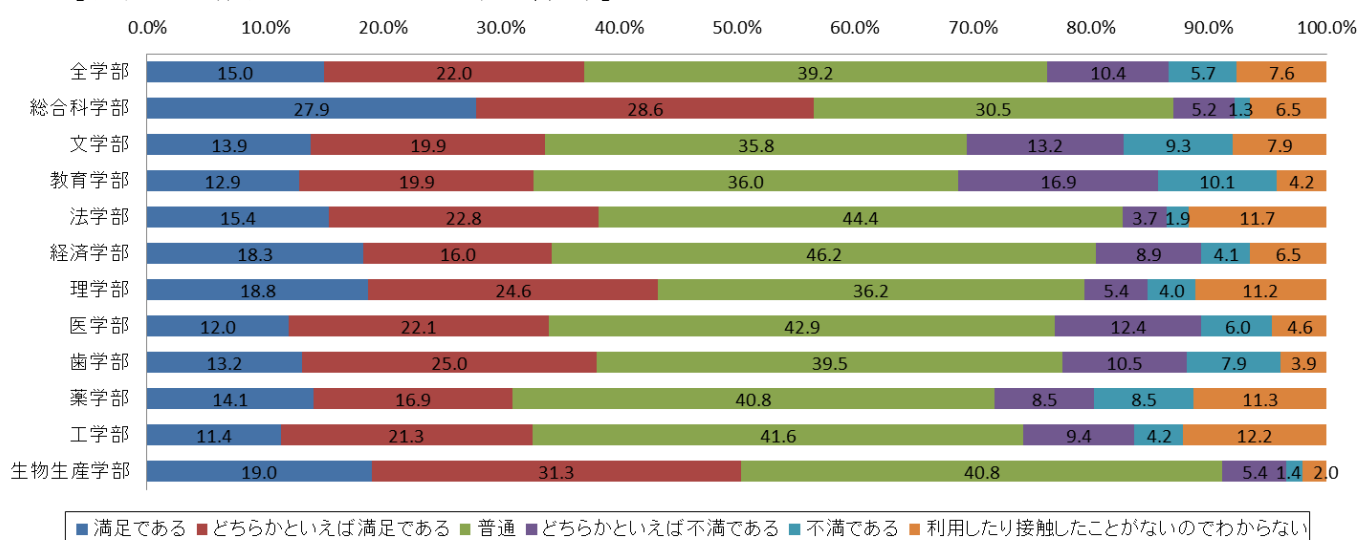
### 設問 39 所属学部・研究科 of 学生支援室の対応について、印象や満足度を教えてください。

全体の 92.4%（グラフ 1）が学生支援室を利用したり接触したりしているが、そのうち「満足である」「どちらかといえば満足」と回答したのは 37%である。

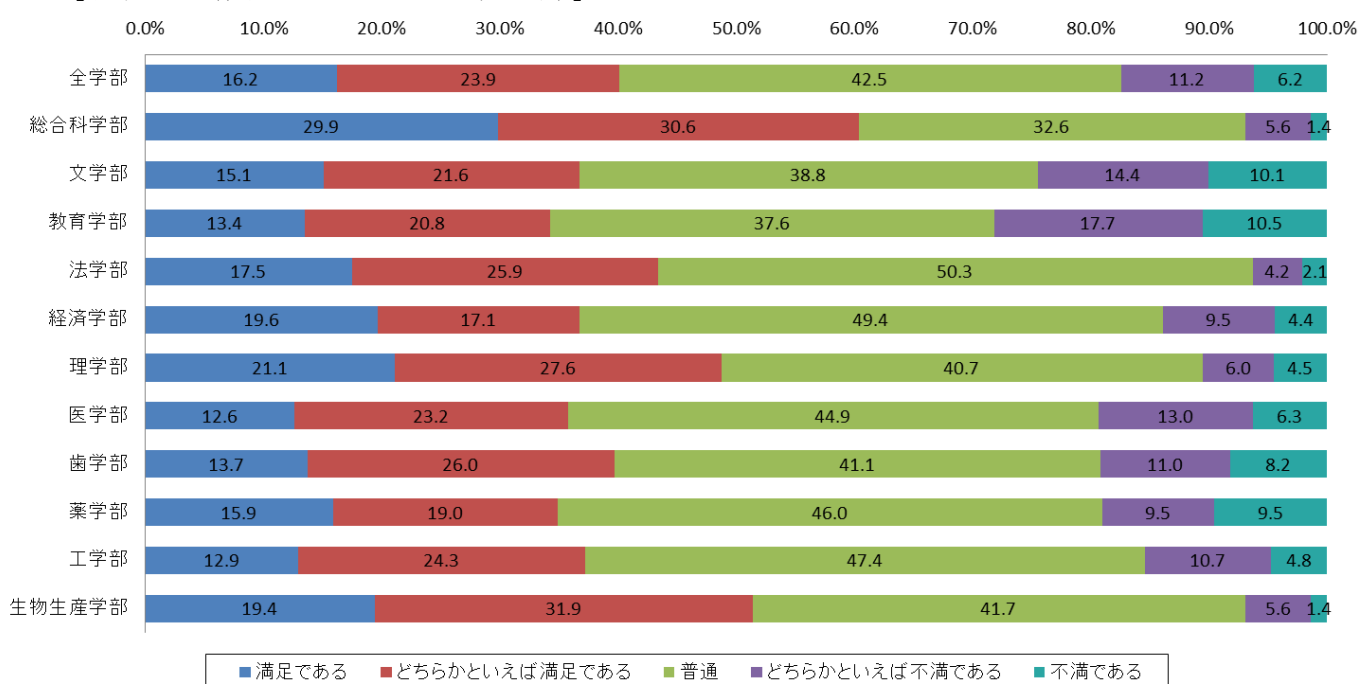
利用したことがある者のうち「満足である」「どちらかといえば満足」と回答した割合（グラフ 2）が高いのは、総合科学部（60.5%）で、「不満である」「どちらかといえば不満」と回答した割合（グラフ 2）が高いのは、教育学部（28.2%）である。

全学部における傾向は、前回調査と同様であった。

【グラフ 1（利用したことがない者を含む）】



【グラフ 2（利用したことがある者のみ）】

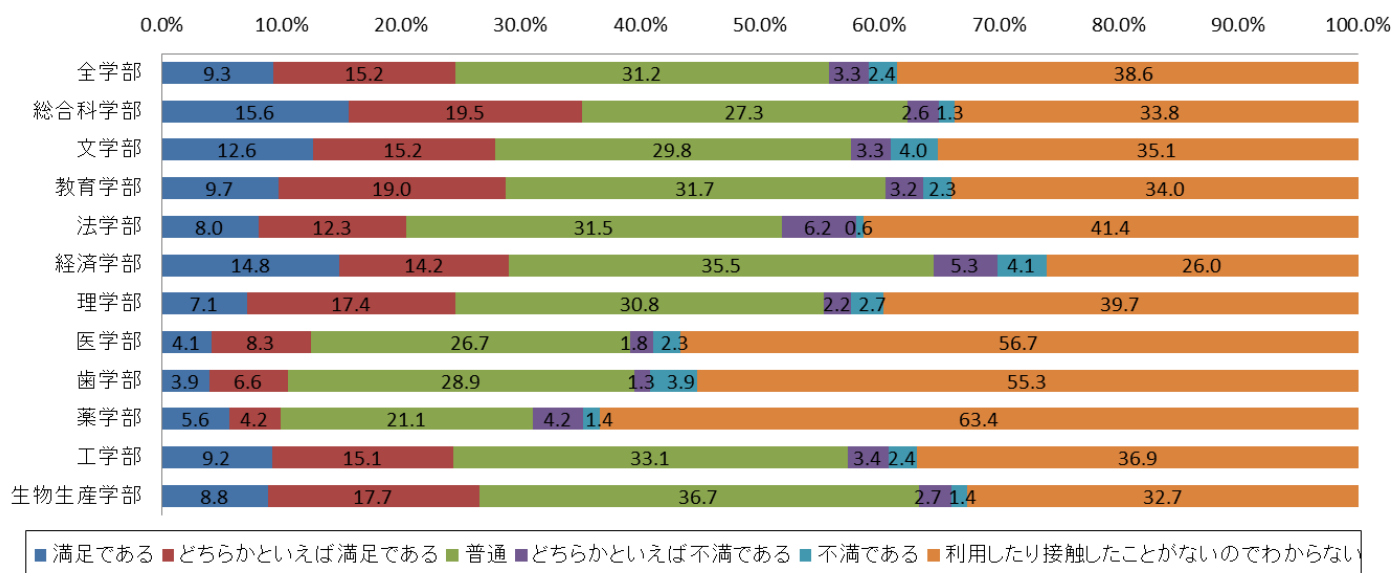


## 2 6 学生プラザの学生支援部門の対応

### 設問 40 学生プラザの学生支援部門の対応について、印象や満足度を教えてください。

全体の 61.4%が学生プラザの学生支援部門を利用したり接触したりしており、前回調査と比較してほとんど変わっていない。東広島キャンパスに通う機会の少ない医学部、歯学部、薬学部は利用したり接触したりした割合が低い。

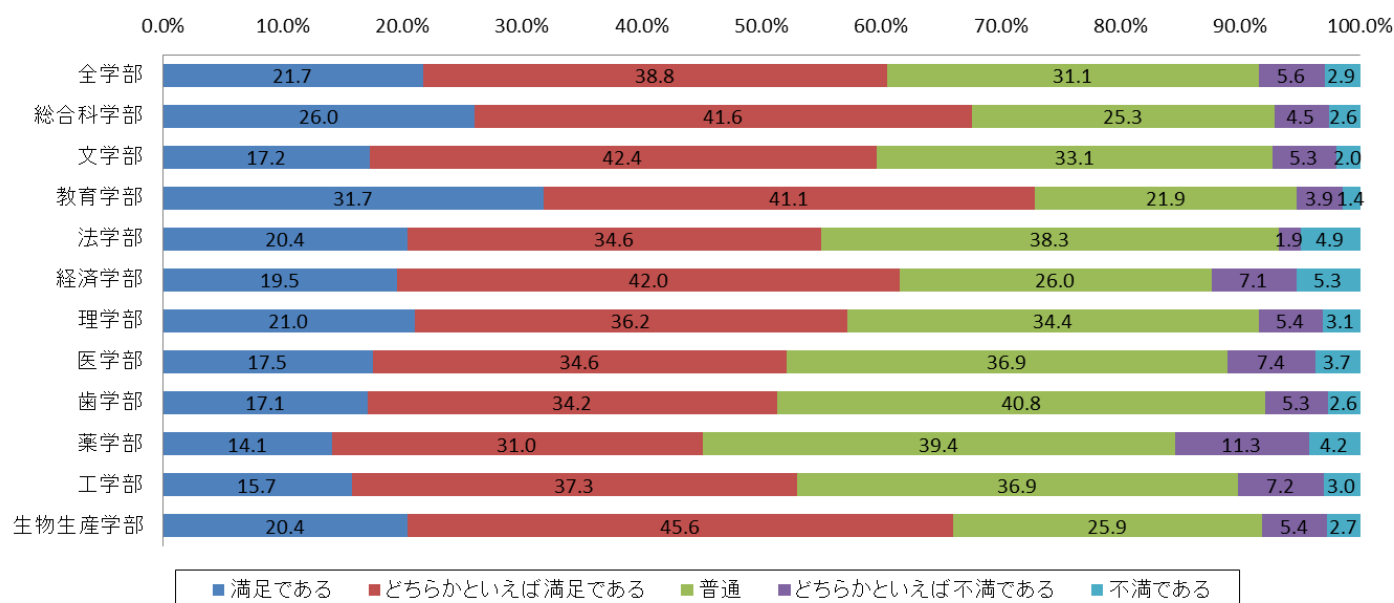
また、「満足である」、「どちらかといえば満足」と回答した割合と「不満である」「どちらかといえば不満」と回答した割合は前回調査と同様の傾向であった。



## 2 7 本学の教育・学習、学生生活などの全体的満足度

### 設問 41 本学での教育・学習、学生生活などに関して、全体として「良い」、「楽しい」と感じるなど、満足していますか。

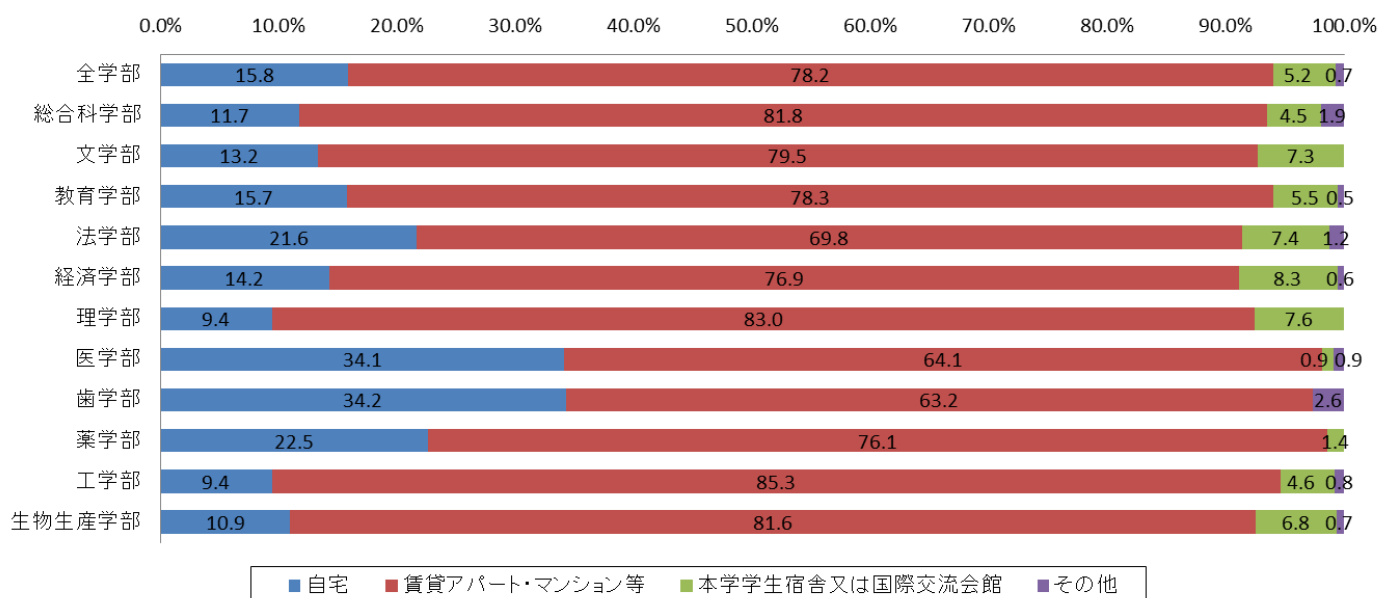
全学部合計では「満足である」と「どちらかといえば満足である」を合わせると約60%であり、前回（H26）の約63%から微減である。「不満である」と「どちらかといえば不満である」の合計は約8%で前回の約7%と同程度であるが、一部の学部では10%を超える。



## 28 居住形態

### 設問 42 居住形態を教えてください。

全学部合計では「自宅」約16%,「賃貸アパート・マンション等」と「本学学生宿舎又は国際交流会館」が合わせて約78%であり, 広範囲からの入学者が集まる本学の性質を反映している。医学部と歯学部では「自宅」の割合が各々約34%と高めであり, 学部の性質と霞キャンパスの立地の影響の双方が考えられる。



## 29 通学方法

### 設問 43 通学方法を教えてください。(複数回答可)

全学部合計では, 複数回答ではあるが「自転車」の回答が約77%あり, 近距離通学者が多いと推察される。「JR」「バス」の回答は各々1割程度であるが, 霞キャンパスの学部では高い傾向がある。

